

ICT街づくりの地域実証プロジェクト の取組状況について

平成26年4月22日

ICT街づくりプラットフォーム形成事業(全体概要)

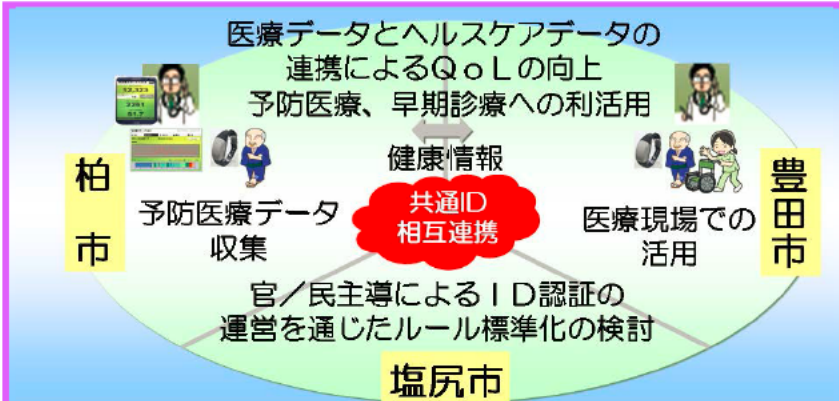
提案者	東京都三鷹市、千葉県柏市、長野県塩尻市、愛知県豊田市、静岡県袋井市
実施地域	東京都三鷹市、千葉県柏市、長野県塩尻市、愛知県豊田市、静岡県袋井市
事業概要	平成24年度ICT街づくり推進事業の成果を有する地方公共団体が、それぞれの取組を更に高度化しつつ、地方公共団体間で協力・連携し、これまでの成果を広く普及展開するための共通基盤(プラットフォーム)を形成するための事業を実施する。



地域間連携の取り組みの概要

プラットフォーム要素

共通ID相互連携



社会実証の側面

- ・医療データとヘルスケアデータの連携によるQoLの向上
 ⇒ 予防医療、早期診療への利活用を見据えたリファレンスモデルの提示
- ・官/民主導によるID認証の運営を通じたルールの標準化の検討

技術実証の側面

- ・国際規格に準拠したID相互連携による他システムの活用
 ⇒ 複数地域や複数分野、複数システムの連携を実現

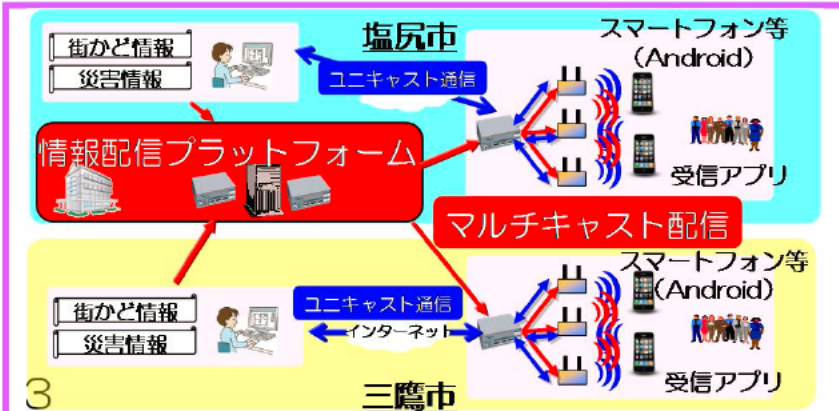
オープンデータ/ビックデータ



- ・各自治体で災害用備蓄品データを公開し、災害時(想定)による備蓄品の送受をシステム化
 ⇒ 広域に渡る自治体連携や、民間企業との連携による共存共助

- ・農業分野でのJANコード活用によるモノのID化及びデータのオープン化
 ⇒ データ流通方法の標準化、ルール化

情報配信プラットフォーム



- ・コンテンツの特性(プル型・プッシュ型)に応じたハイブリッドによる確実な情報配信
 ⇒ 広域に渡る連携や、様々な情報に対する適切な配信方法の確立

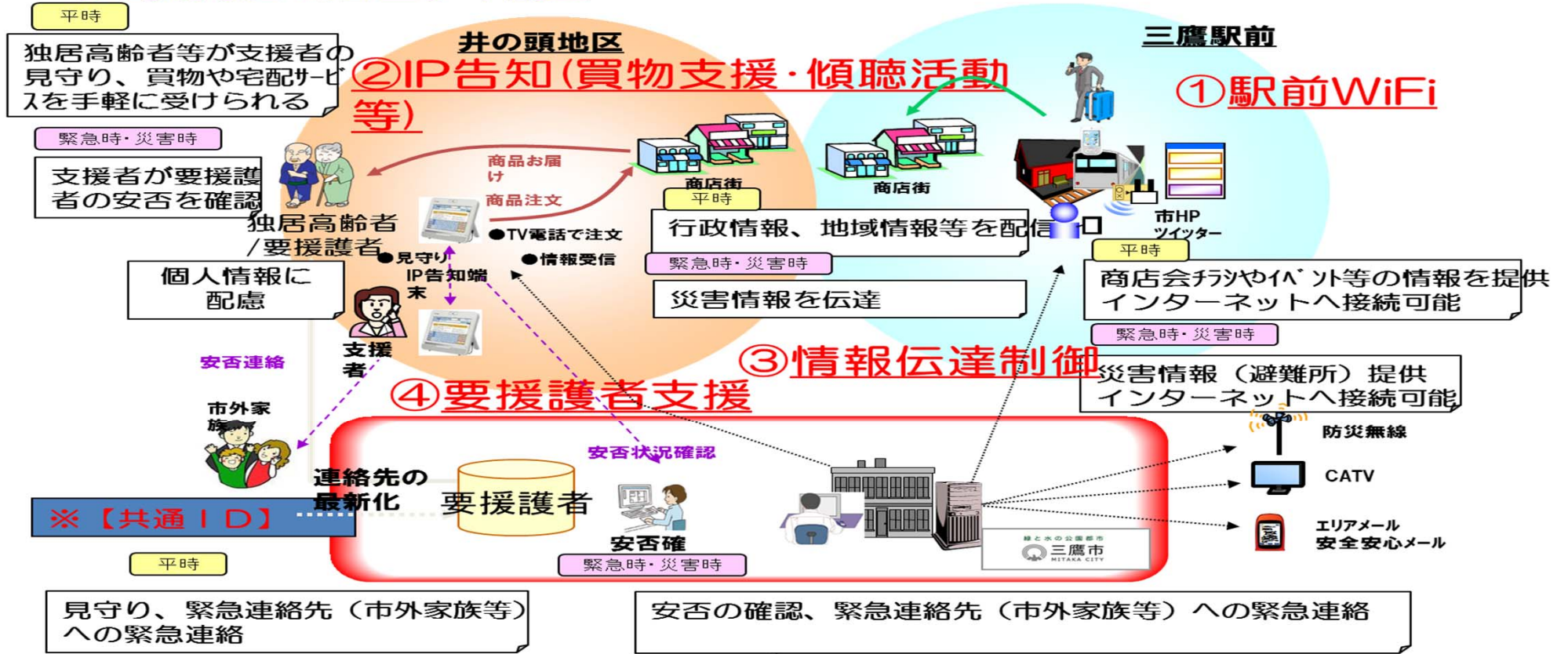
- ・Wi-Fiネットワークを活用した情報配信
- ・共通となる情報配信プラットフォームによるマルチキャスト配信の実現、ユニキャスト配信との併用
 ⇒ 複数地域の参加・連携による安価な実現

東京都三鷹市における取組

平成24年度の取組について【三鷹市】

実施団体	株式会社まちづくり三鷹
実地地域	三鷹市
事業概要	①駅前WiFi②IP告知③要援護者支援④情報伝達制御 の4つの仕組みを複合的かつ、相互の機能を連携して運営することで、災害時の住民間の共助と平常時のにぎわいを生み出すコミュニティの創生を目指す。
実証結果	見守り・安否情報と要援護者情報の連携により、共助の仕組みが大きな効果を発揮することがわかった。平時の実証に加え、4つの仕組みを連携し、地域住民も参加した総合防災訓練を実施した結果、満足を得ることができた。

三鷹市ICT街づくり実証事業の全体イメージ ～多角的なコミュニティ創生～



※要援護者支援において、「個人番号制度」を想定した共通IDを導入し、市外の家族等の最新住所・連絡先を確認できるシステムを提案、構築した

プロジェクト名

第2次コミュニティ創生プロジェクト

提案者

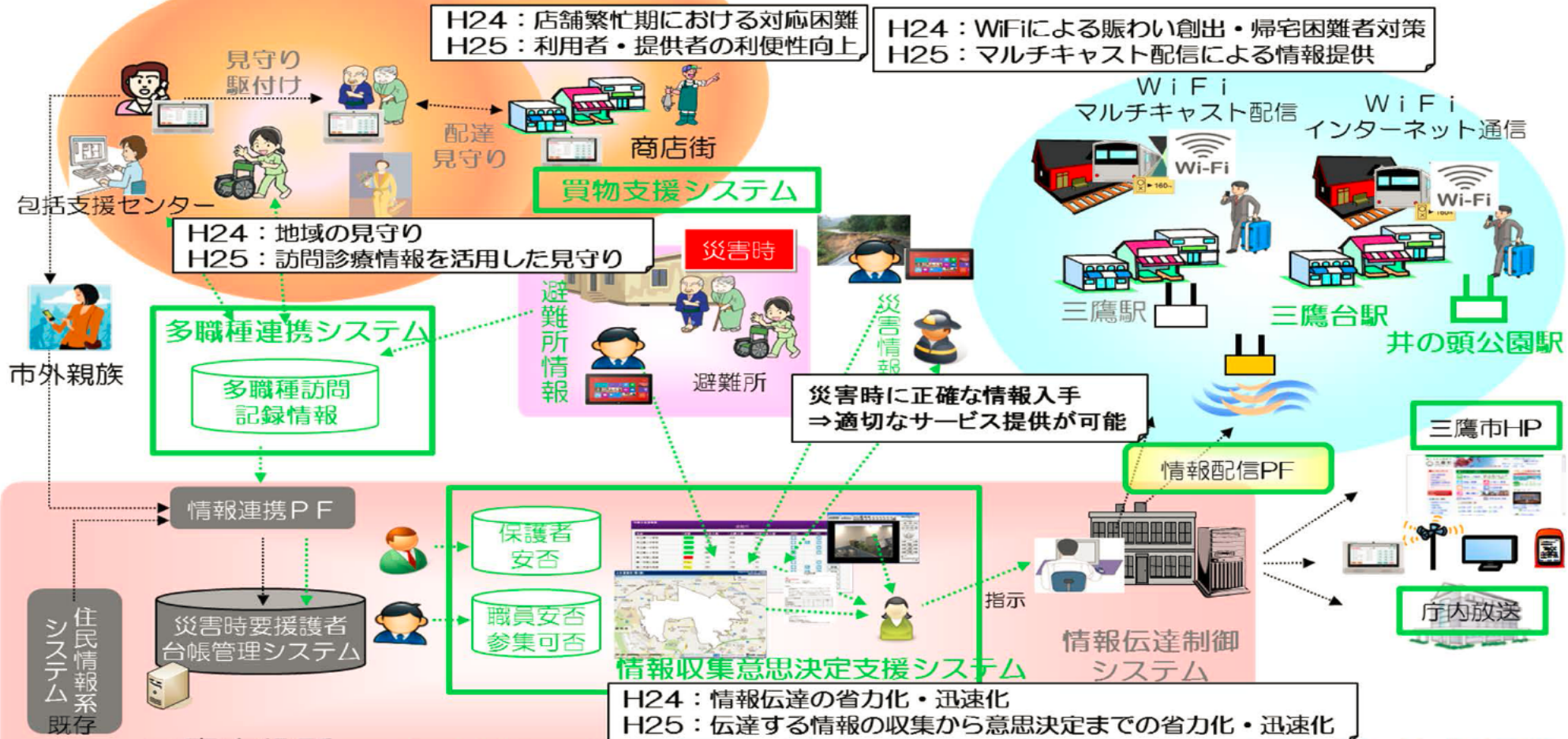
東京都三鷹市 株式会社まちづくり三鷹

事業概要

住民同士の支えあいによる新たな共助の仕組み(コミュニティ創生)、災害時における、まちの危機管理能力の向上(危機管理)を目指し、ICTを活用した取り組みを実施する。本実証では、①きずなの多層多元化 ②情報の収集と一元管理による市民への適正・迅速な情報提供 ③帰宅困難者支援の拡充による有効性を実証し、他地域に展開可能な先行モデルの形成を目指す。

1) きずなの多層多元化

3) 帰宅困難者支援の拡充



2) 情報の収集と一元管理による市民への適正・迅速な情報提供

実証項目	実証事業	取り組み内容
きずなの 多層多元化	買い物支援事業	日頃の見守りと買物支援を一体的に実施することにより、見守る側と見守られる側双方の負担が小さい、生活の中での共助の仕組みを構築し、有効性を検証する。
	多職種連携事業	在宅の要支援者を取り巻く多職種（ヘルパー、地域包括支援センター、医師等）の、情報共有や情報交換を活性化させる仕組みを構築し、有効性を検証する。
情報の収集と 一元管理による市 民への適切・迅速 な情報提供	情報収集意思決定支援	多くの情報が飛び交う混乱時に、情報の二重管理や重複などを解消すると共に、情報共有や情報活用を促進させ、意思決定迅速化を支援する仕組みを構築し、有効性を検証する。
	情報伝達制御	防災無線での情報伝達における課題である、規模の大きい施設内部へ確実に情報を伝達する仕組みを構築し、有効性を検証する。
帰宅困難者 支援の拡充	Wi-Fi（一斉配信型通信とインターネット通信環境の提供）	一斉配信型のマルチキャスト通信による情報配信により、同時に多くの情報端末に情報を届けるWi-Fi環境を構築し、円滑な情報配信の実現に向けた技術要素を検証する。

実証事業に参加・協力くださった団体・市関係部署

実証項目	実証事業	実証参加者・団体等	市関係部署
きずなの 多層多元化	買い物支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新川・中原商店街 ・NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 ・市民(買い物困難者:妊産婦、障がい者、高齢者) 	生活経済課
	多職種連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター ・見守り、訪問介護・医療の専門家(医師、歯科医師、看護師、社会福祉士、ケアマネージャー、福祉用具相談員など) 	高齢者支援課
情報の収集と一元管理による市民への適切・迅速な情報提供	【インプット側】 ①保護者の安否確認 ②職員安否・参集 ③情報収集意思決定支援	①教職員、学校・保育園の保護者 ②市職員 ③ -	①教育委員会総務課 子ども育成課 ②職員課 ③防災課
	【アウトプット側】 ①情報伝達制御 ②安全安心メール ③市ホームページ ④庁内放送	① - ②③④市民(在勤・在学・観光等訪問者を含む)	①防災課 ②安全安心課 ③秘書広報課 ④契約管理課
帰宅困難者支援の拡充	三鷹Wi-Fi	NPO法人子育てコンビニ 市民(在勤・在学・観光等訪問者を含む)	情報推進課

きずなの多層多元化 成果と今後の取り組みについて

実証項目	実証事業	成果	今後の取り組み
きずなの多層多元化	買い物支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安否確認などの見守りの取り組みと、買物支援の取り組みを融合させることが有効であるという回答が70%を超えた。 ・ 機器の使いやすさや操作性において、高齢者から不満の声があった。ただし、日頃からスマートフォンなどの利用がある妊産婦からは、大きな不満は無かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットの普及状況を踏まえた、ハードに依存しないアプリケーション化の推進。 ・ 音声入力など、ICTリテラシーに左右されない仕組みの導入。 ・ 個人情報の取り扱いに配慮した、職種間のルールの策定。
	多職種連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に要支援者の状況が把握できることにより、サービスの質が向上した。特に、映像情報を事前に確認できることにより、最適なサービスを選択可能となった。 ・ 場所の制約から解放されることにより、サービスに割ける時間が増えた。 ・ 他の職種の実施内容がわかり、それぞれの役割が明確になった。 	

情報の収集と一元管理による市民への適切・迅速な情報提供 成果と今後の取り組みについて

実証項目	実証事業	成果	今後の取り組み
<p>情報の収集と一元管理による市民への適切・迅速な情報提供</p>	<p>情報収集意思決定支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の意思決定において被災状況の確認など抜本的な改善が図られることが確認された。 ・画像情報はとても有効。単に記録をするのではなく、日時が記録され、災害時の段階を区切ることができ、その時点の状況まで遡及できる機能が有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平常時からの積極的な利活用の促進。 ・広域での情報共有・活用のためのルール作りや仕組み作り。
	<p>情報伝達制御</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の安否など、活用できる情報が増えることにより、適切な判断が可能となった。ただし、情報量が増えれば、情報過多・混乱を招くため、整理の仕組みや運用ルール作りなどが大切。 ・情報の一斉配信先の拡充、特に、素早い初動を必要とする公共施設への情報伝達手段の充実が有効である事が確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配信する情報と配信者の運用整理 ・学校の校舎内など、情報伝達先の拡充による情報空白地の削減。

帰宅困難者支援の拡充 成果と今後の取り組みについて

実証項目	実証事業	成果	今後の取り組み
帰宅困難者支援の拡充	三鷹Wi-Fi	<ul style="list-style-type: none"> ・駅を利用する者への情報伝達手段を構築することができた。 ・プッシュ型のデータ配信による情報伝達手段が有効である事が確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データ配信のキーとなるタグの標準仕様化の検討 ・他地域(全国)への展開に向けたマニュアル等の作成 ・平時におけるWi-Fi環境の利用拡大(災害時にシームレスで利用していただくためのアプローチ)

<<参考>> 他自治体からの視察及び事例発表について

対応日	視察自治体
1月20日	北海道ニセコ町
1月24日	鳥取県
2月12日	長野県富士見町
2月21日	沖縄県

対応日	内容
2月25日	柏市等主催の「スマートシティセミナー」で三鷹市の事例発表を実施。

千葉県柏市における取組

【①柏の葉モデルのパッケージ化】

平成24年度：共通IDを活用して、エネルギー、健康、行政情報等のデータ基盤の連携を行う
共通プラットフォームを構築

スマートシティ (エネルギー・防災)

- 地域でエネルギーを一元管理
- 省エネ・創エネ・蓄エネを推進
- エネルギーと食の“自産自消”
- 低炭素型の新しい都市交通
- 災害時でもライフラインを確保

健康長寿都市

- ICTを活かした多世代間交流で誰もが生き生きと暮らす社会
- 地域連携による疾病・介護予防
- トータルヘルスケアステーションの創設

新産業創造都市

- 日本が誇る「技術力」を活かしたベンチャーを地域で支援
- グリーン経済を支える新産業
- 国際的なベンチャーコミュニティ創生

地域全体のエネルギー情報を「見える化」し、街区間で電力融通するスマートグリッドを構築中

自発的な健康増進・疾病予防の実現、医療健康データ連携

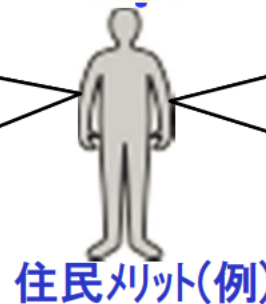
ベンチャー/地域コミュニティを支援し、地域活性化



「共通ID」に基づく様々なデータ基盤の連携
(構築にはエネルギーの既存インフラの活用)

ビッグデータの利活用による様々な新サービス
(民間のサービスインフラの活用)

- ✓ 共通ID化とデータ基盤の連携により、利便性の向上
- ✓ 自分の固有IDに応じてカスタマイズされたサービスが受けられ利便性向上
- ✓ 将来マイナンバーなどが導入されても拡張対応可



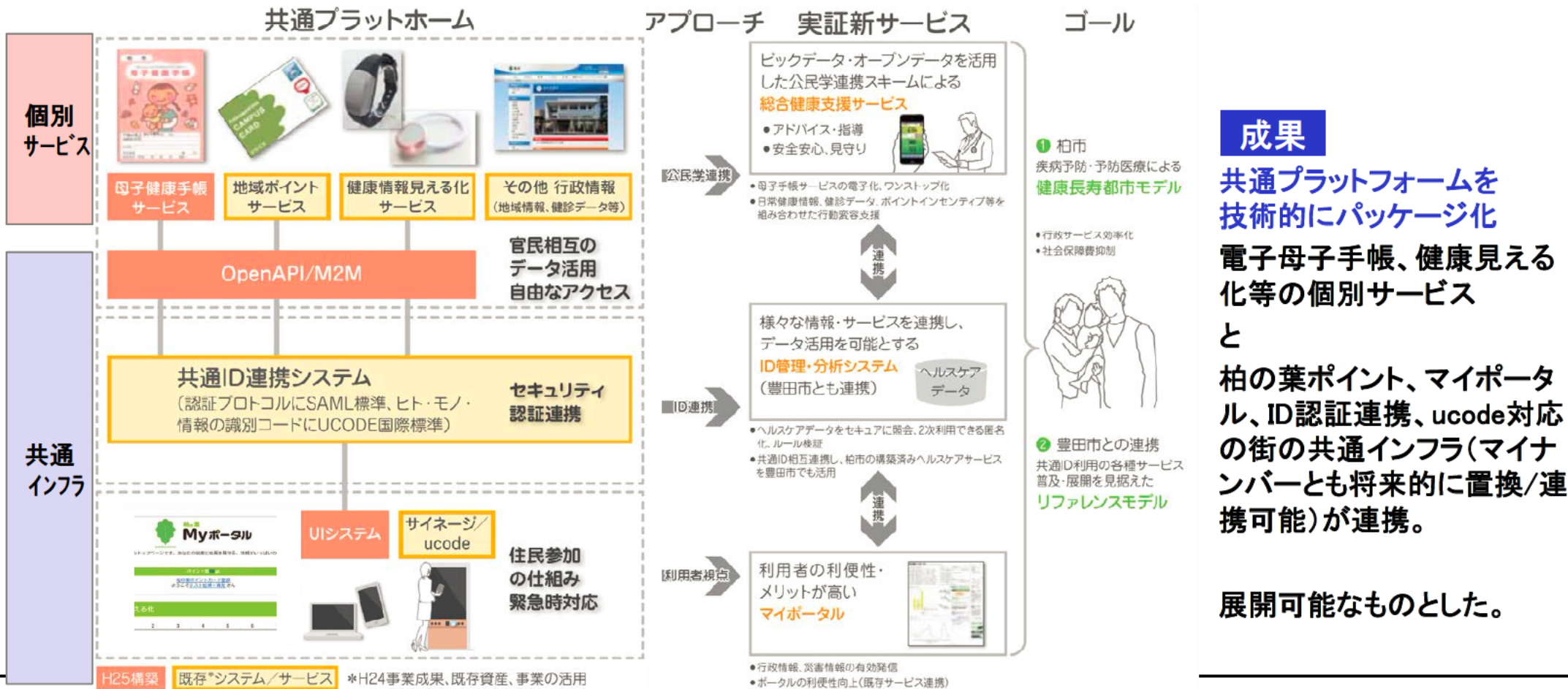
- ✓ 健康見える化サービスで意識変化・生活改善
⇒ 病気にかかりにくく医療費が削減
- ✓ 省エネ・節エネ、健康活動により、地域で使えるポイント
- ✓ スマホやサイネージからリアルタイムな行政情報や地域情報を取得
- ✓ 非常時に屋外でも避難経路情報など、得られ安心

【①柏の葉モデルのパッケージ化】

共通プラットフォームを活用した「公民学連携型の総合健康支援サービス」

平成25年度：官民サービス(行政：電子母子手帳、民間：健康見える化、地域ポイント)連携で総合健康支援サービスを実証
 共通ID認証連携により、豊田市足助病院で健康データ見える化サービスを実証

運営主体	柏市、エムティーアイ、三井不動産、メディシンク、ユーシーテクノロジー、地域ポイント運営協議会
分野	健康、医療従事者との連携、地域ポイント
機能	個人・行政・民間情報、サービス、システム、APIを共通ID (ucode) で統合してシングルサインオンを利用したポータルにより複数サービスを統合可能な共通ICTプラットフォームを構築



【① 柏の葉モデルのパッケージ化】

個別サービス 電子版母子健康手帳

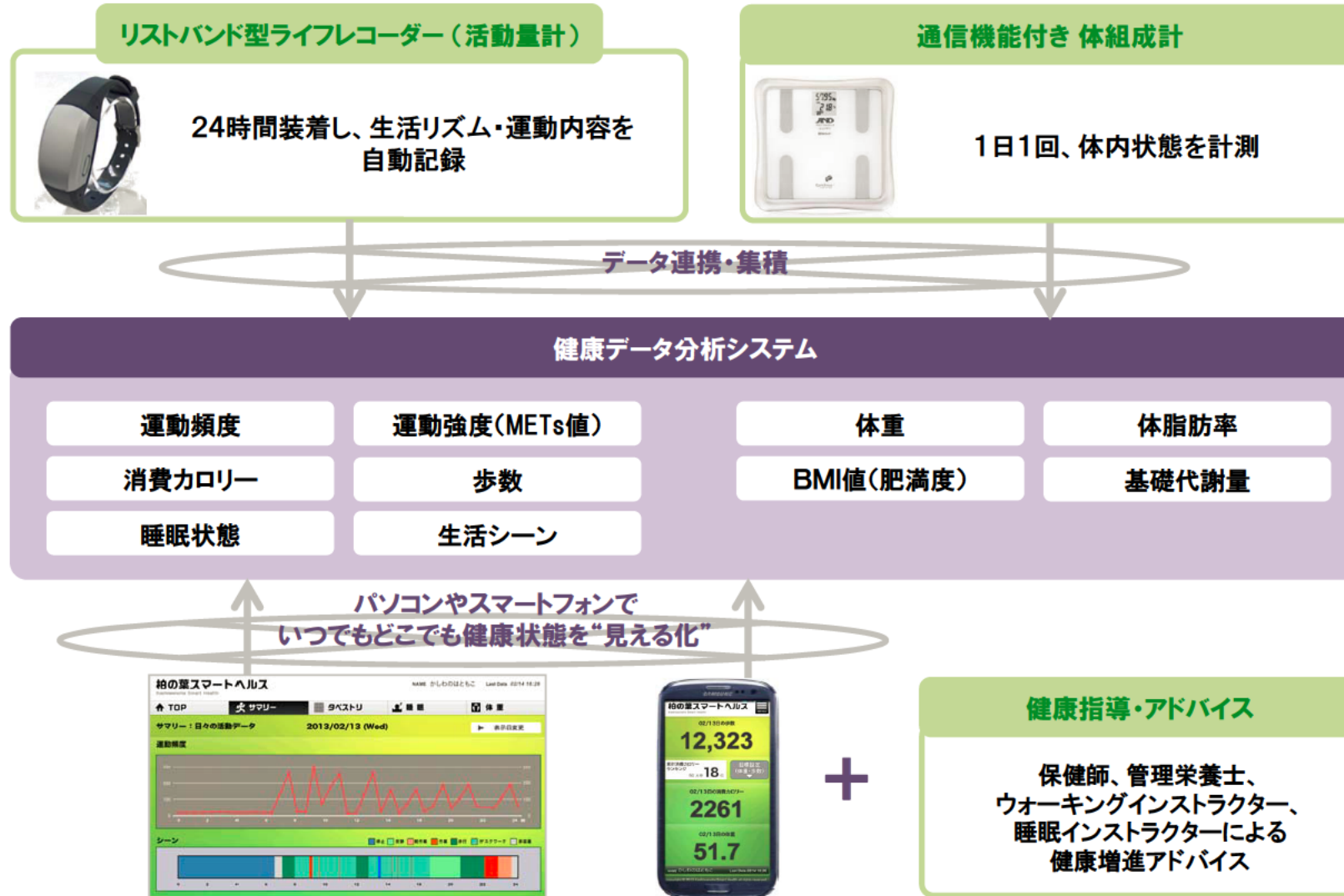
電子母子手帳サービスと妊産婦向け健康見える化サービスを官民連携の取組により提供



【①柏の葉モデルのパッケージ化】

個別サービス 健康データの見える化

健康データの見える化サービス継続。ポイントインセンティブ、運動プログラム等のコミュニティサービスを実施



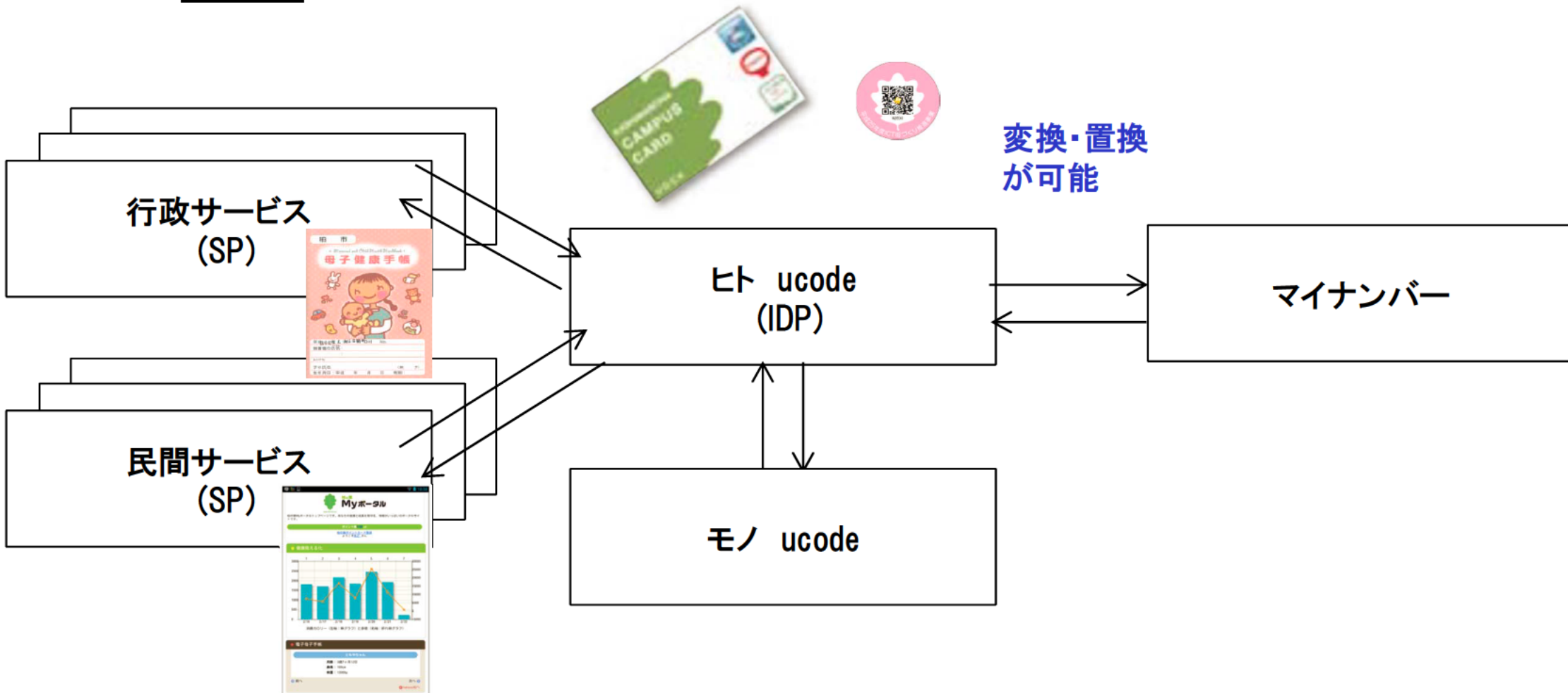
【① 柏の葉モデルのパッケージ化】

個別サービス 地域ポイント(柏の葉キャンパスカード)による連携

地域ポイントカード (ucodeの活用)を共通プラットフォームと連携し、
変換テーブルによる、将来的なマイナンバーとの交換性、柔軟性、確保、

サービス

変換テーブル



【① 柏の葉モデルのパッケージ化】

共通インフラ 住民向けマイポータル

様々な個別サービスを連携、住民にとって一元的なUIを実現すべくマイポータルを「街の玄関口(バーチャル)」として構築

スマホ画面

Web画面



【柏の葉スマートヘルス・プロジェクト】
・健康見える化「リストバンド型ライフレコーダー」

【柏の葉ママライフサポートプロジェクト】

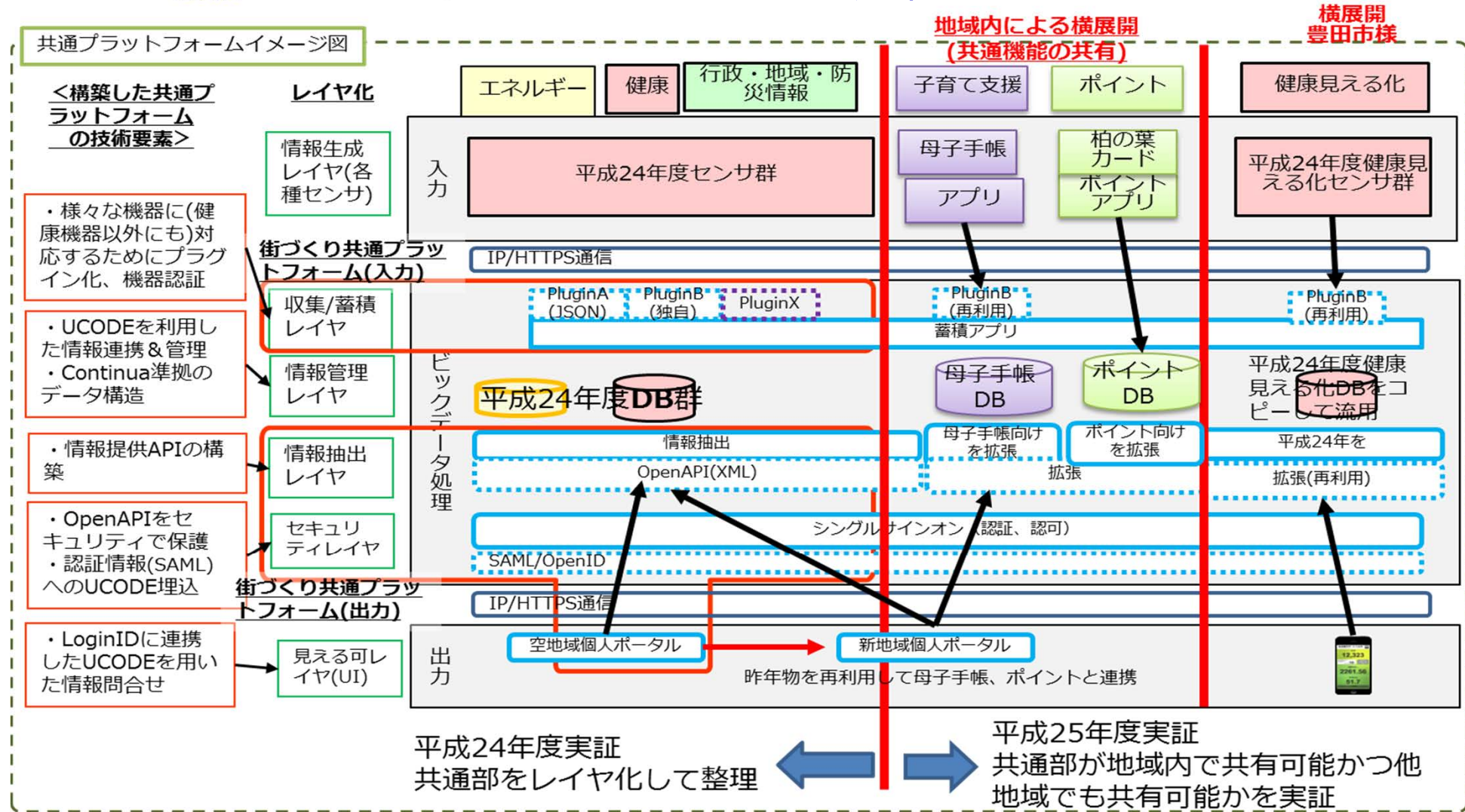
- ・電子母子手帳「hahaco柏」
- ・健康見える化「カラダフィット」

【①柏の葉モデルのパッケージ化】

(参考)共通プラットフォームの基本ルール

以下を基本ルールとして整理・推進し、オープン&インターオペラビリティを確保している

- ・Open API (Open APIの公開)
- ・機能のモジュール化
- ・ID認証連携 (標準SAML2.0, ucode標準)
- ・共通部のレイヤー化



【①柏の葉モデルのパッケージ化】

(参考)共通プラットフォーム Open APIの公開・参照ポータル構築

マイナンバーとの連携、オープンデータ社会、ビックデータ活用からの様々な付加価値サービス、更にその先を見据えた社会共創基盤を整備する必要がある。

ucode管理システム

ログアウト

ヒト・モノ・場所
サービス
システム
API
をユニークな共通
ID(ucode)で
管理



様々な付加価値
サービスの源泉に
(社会共創プラット
フォーム)

ucode管理
ucode発行
メタデータ管理
人 (person)
法人 (organization)
グループ (group)
モノ (thing)
場所 (place)
サービス (service)
システム (system)
API

ucode一覧: モノ(thing)

ucode	カテゴリ	名称	操作
00001c000000000000002000000005b06e	Embedded Hardware	T-Engine Board	編集 削除
00001c000000000000002000000005b07b	活動量計	CalSteps	編集 削除
00001c000000000000002000000005b07c	活動量計	CalSteps	編集 削除
00001c000000000000002000000005b07d	活動量計	CalSteps	編集 削除
00001c000000000000002000000005b07e	活動量計	CalSteps	編集 削除

今後か拡充予定の情報としては、
 ・概要・利用シーン
 ・プログラム(リクエスト、レスポンス)
 ・利用方法(無料、有料、ライセンス体系)
 ・問合せ先

【①柏の葉モデルのパッケージ化】

(参考) 共通プラットフォームの活用による新たなサービスの創出

異なる主体・サービスが保有するデータを活用(取得・加工)して、新たなサービスが生まれ出される環境

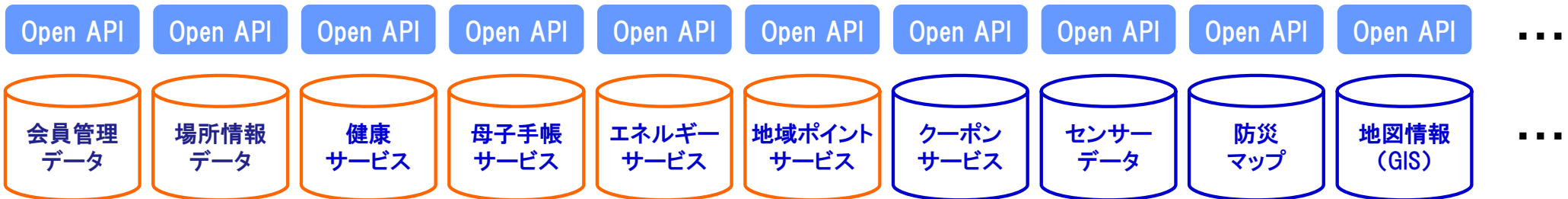
柏の葉モデルで
実現したサービス

柏の葉モデルの
データ活用で実現が
見込めるサービス

将来実現が期待
されるサービス



共通プラットフォーム



【②普及展開の取組】

「柏の葉モデル」の展開イメージ

柏の葉モデルでは「ICTによる共通プラットフォーム」と「街のすこやかステーション(7月にオープン予定)」がリアルとバーチャルでの街の玄関口となり、公民学で様々なサービスが連携する。

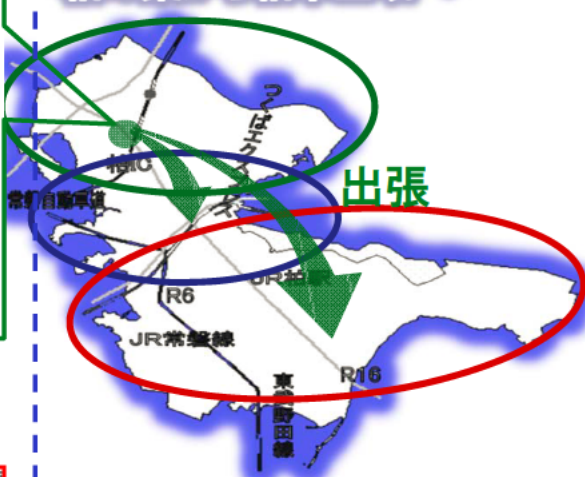
地域内

柏の葉モデル

街の玄関口(リアル)



柏の葉から柏市全域へ



街の玄関口(バーチャル)



北部ゾーン

柏の葉スマートシティモデル

中央ゾーン

広域商業拠点
高齢者の生きがい環境形成

南部ゾーン

農業・観光レクリエーション、自然共生

地域外

課題解決モデル
として各地へ展開

国家的モデル指定

環境未来都市

地域活性化総合特区

総務省「ICTスマートタウン」先行モデル

経団連「未来都市モデルプロジェクト」

全国へ
豊田市(実証)、
山口市他



コンソーシアム

SC企画、HP、MT、MTI、UCT...

【②普及展開の取組】

水平展開に向けた取組例(自治体向けスマートシティセミナー開催)

2/25に自治体、街づくり主体を中心に集め、ICT街づくりの取組を紹介した。

柏市

スマートシティセミナー

～ICTを活用した健康長寿都市モデル(健康増進、子育て支援)の実現・普及に向けて～

日時 平成26年2月25日 14時～18時(開場:13時半)

会場 柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)
千葉県柏市若葉3-84-1柏の葉キャンパス149街区13
(つくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅東口徒歩1分)

対象 自治体、企業、街づくり関係者

※参加費無料、要事前申込

柏市は、地域活性化総合特区、環境未来都市のダブル指定都市であり、超高齢化社会の課題解決モデルとして健康長寿の街づくりを戦略として掲げています。
平成25年度総務省ICT街づくり推進事業において、柏市は「公民学連携のコンソーシアム」で委託を受け、ICTプラットフォームや様々なビッグデータの利活用基盤を構築しています。
本セミナーでは、他地域の皆様におけるICT街づくりの促進に向けて、公民学連携でつくる柏の葉スマートシティ(柏の葉モデル)での共通プラットフォーム&サービスの取組を紹介させていただきます。

主催 柏市、スマートシティ企画、日本ヒューレット・パッカー
共催 三井不動産、エムティーアイ、ユーザーテクノロジー、国際航業 他

「コンソーシアム」は、柏市、株式会社エムティーアイ、株式会社国際航業ネット、ストリートメディア株式会社、スマートシティ企画株式会社、日本ヒューレット・パッカー株式会社、三井不動産株式会社、株式会社メディアリンク、ユーザーテクノロジー株式会社、国際航業株式会社で構成。

セミナープログラム	
14:00-14:15	主催挨拶
14:15-14:45	講演セッション1「ICTを活用した街づくりの現状と課題」 総務省ICTまちづくり事業の目指すところ 自治体としての連携策 ICTまちづくりの最新動向(イノベーション動向等)
	総務省 課長補佐 白壁角崇氏 まちづくり 三鷹取締役後藤省二氏 日本HP 本部長 高見栄造
14:45-15:30	講演セッション2「柏市におけるICT街づくり推進事業の概要」 公民学連携の街づくり 柏の葉スマートシティ(柏の葉モデル)の取り組み 柏市のICT街づくり推進事業の全体概要 共通PFを活用した総合健康支援の持長
	UDCK副センター長 三牧浩也 氏 三井不動産 部長 河合淳也 柏市企画部 参事 奥山勤也 スマートシティ企画 副部長石垣祥次郎
休憩	
15:40-16:30	柏市における事業の詳細(デモ等) 電子母子手帳&健康見える化によるママサポート u-codeを活用したユビキタス化(ID認証連携) 住民視点(スモールデータ)のインターフェース プラットフォーム全体像と設計思想(豊田市事例)
	エムティーアイ新規事業部長 多湖英明 ユーザーテクノロジー 部長 岸岸康史 国際情報ネット 部長 長谷川雅人 日本HPシニアコンサルタント 小野泰司
16:30-17:00	質疑応答
17:00-18:00	名刺交換&意見交換時間

約80名の自治体・企業関係者等を集客



柏市長よりの主旨説明



【②普及展開の取組】

水平展開に向けた取組例(アジア通信関係省向けセミナー)

本事業の取組を、APTの研修セミナーでPR(アジア通信関係省 11か国参加)
電子母子手帳と健康データを活用した母子手帳を中心に紹介するなど積極的に普及展開

1 UDCK研修:2014年3月3日
13時50分～16時30分/場所 柏
の葉キャンパス駅 UDCK

2 出席者 APT研修員の11カ国
13名 APT研修員リスト参照
スマートシティ企画(株) 事業推進
部 石垣副部長
柏市役所 企画部 企画調整担
当リーダー 石名坂副主幹
(株)エムティーアイHealthcare事業
本部 事業戦略室 多湖室長、
Healthcare事業本部 Application
developer G 福田テクニカル・アシスタ
ント・リーダー
BHN 土橋事務局次長、木村参
与、白石、小林会員
MMD(株) 斎藤社長



2014/03/03

【②普及展開の取組】

山口市への水平展開

共通プラットフォーム等の仕組みを活用した展開を
山口市、及び地元企業と調整中

柏の葉モデル

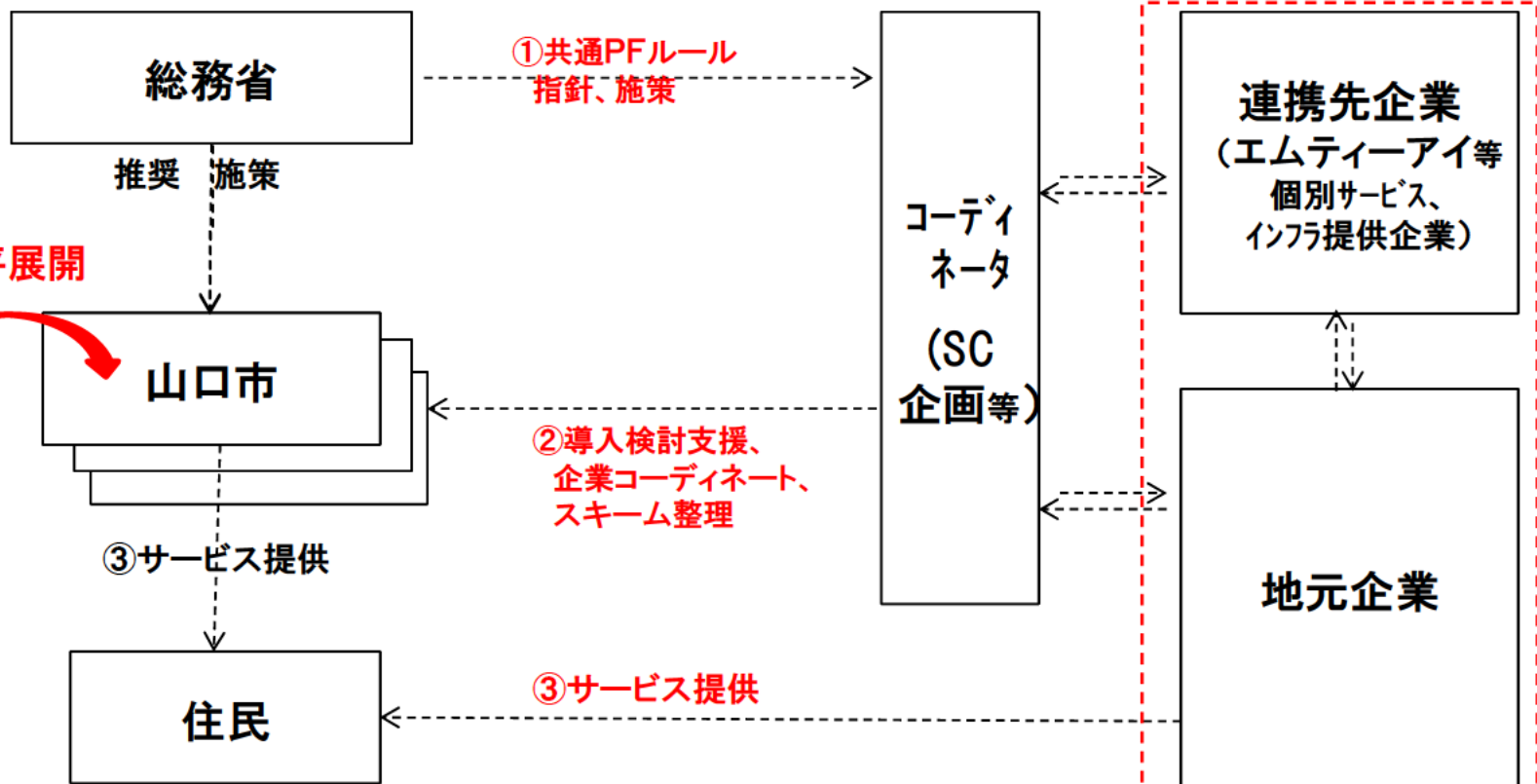
街の玄関口(リアル)



街の玄関口(バーチャル)



水平展開

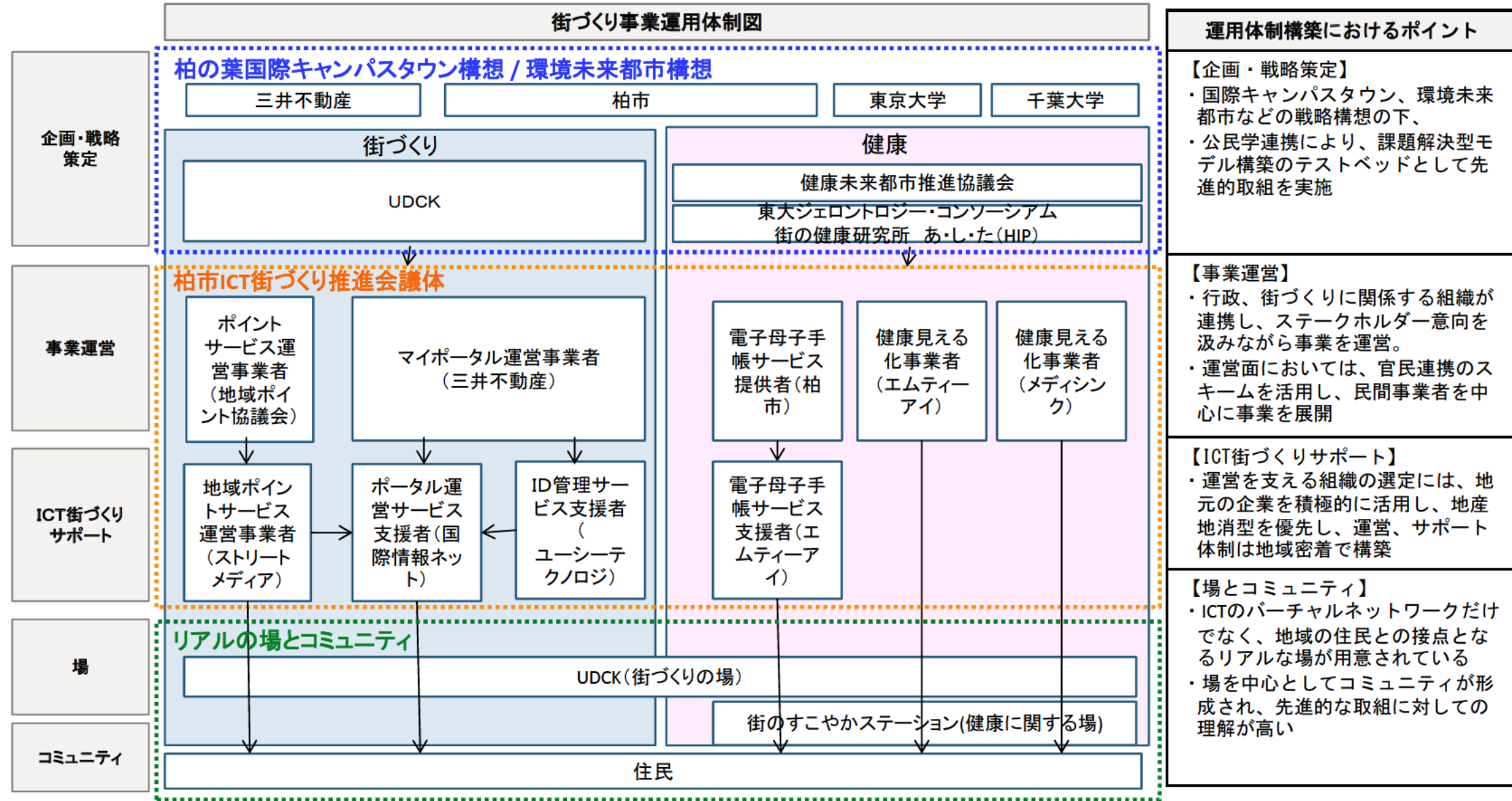


山口地産地消型モデル

【③街づくり推進の仕組みの構築】

柏の葉 街づくりの運用体制

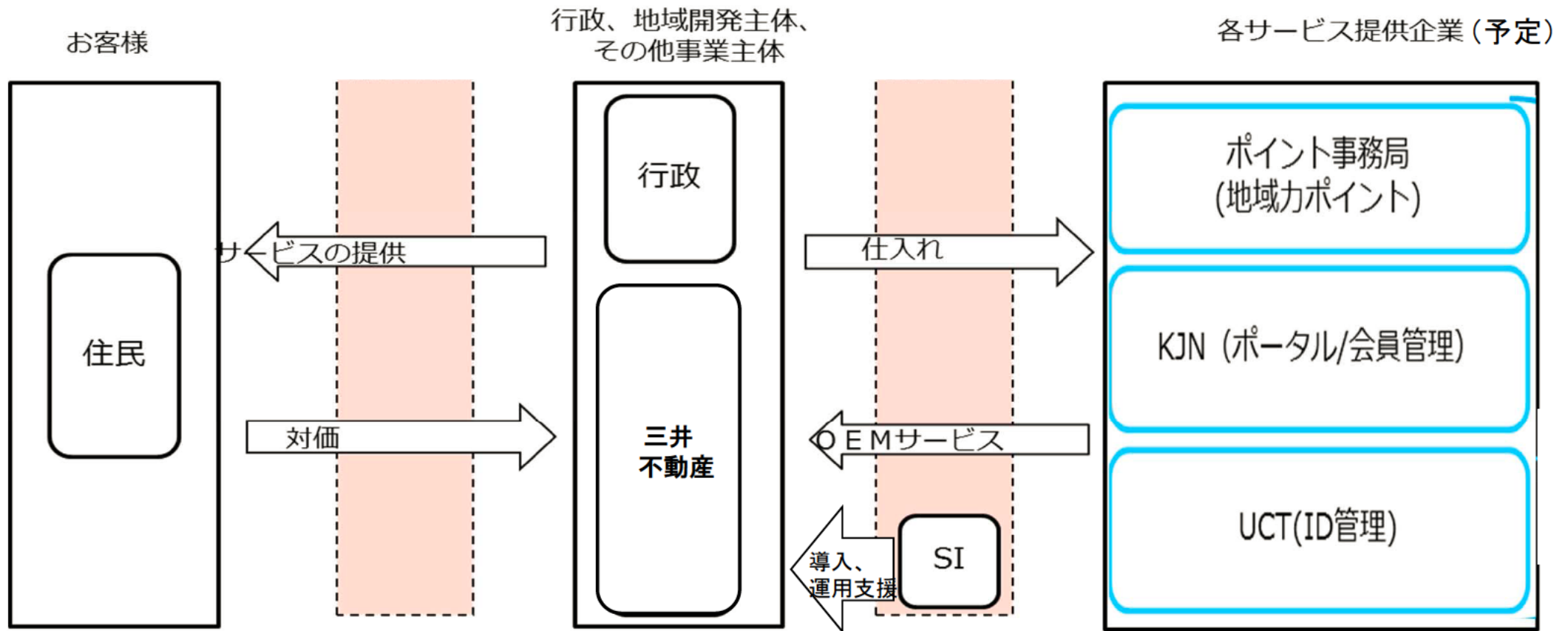
ICT街づくり、企画・戦略、リアルな場・コミュニティが協調し、公民学連携で事業推進



【③街づくり推進の仕組みの構築】

共通インフラ 地域内事業スキーム

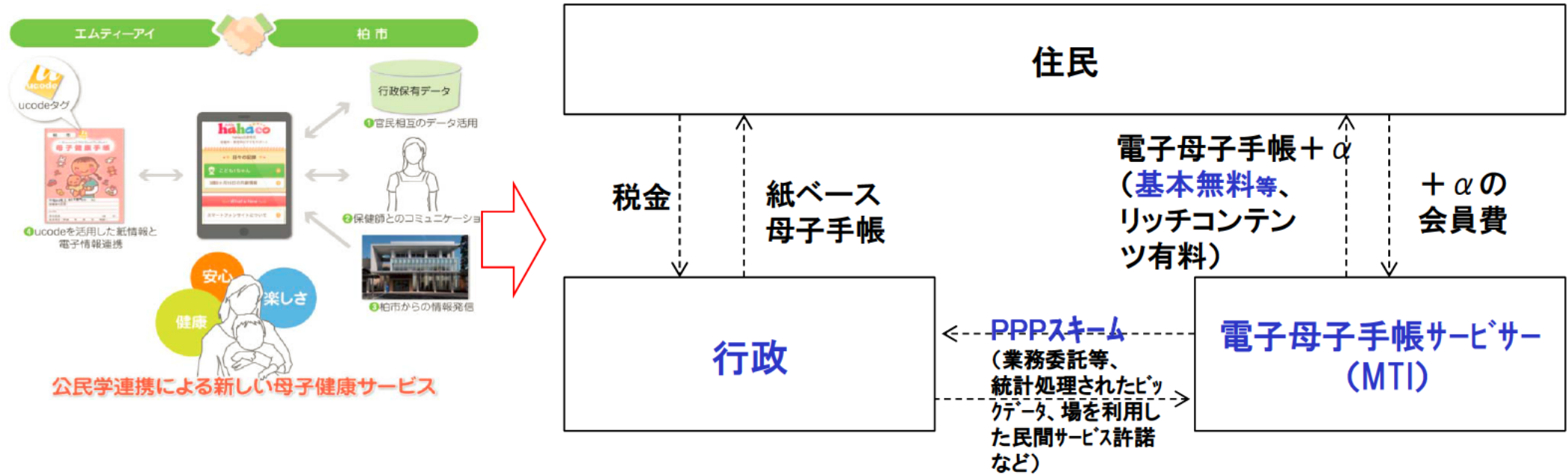
マイポータル、ポイント、ID認証連携の仕組みは
「街づくり主体が中心となったエリアマネジメントサービス」として継続展開(予定)



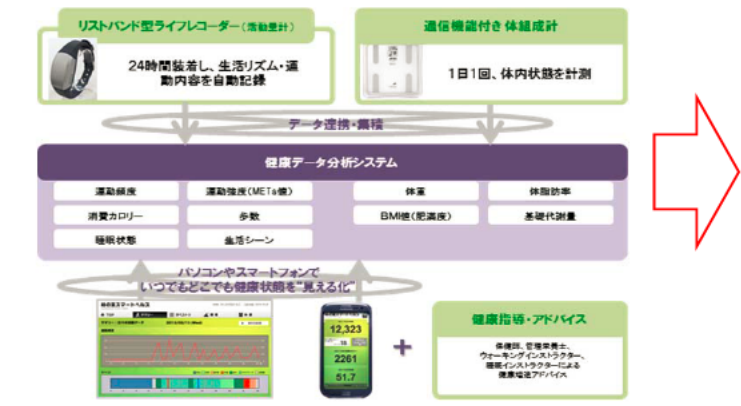
【③街づくり推進の仕組みの構築】

個別サービス 地域内事業スキーム

電子母子手帳サービスは「**公民学連携による新しい公共の形**」を構築し、継続展開予定



健康見える化サービスは「**地域コミュニティにおける民間事業ベース**」で事業継続予定



(メディシンク)
 H24,25の事業継続について、「健康見える化サービス」を事業化する方向で準備中モニターベースで倶楽部を結成。柏の葉周辺住民を中心に拡大予定。
 (エムティーアイ)
 事業として既に全国サービス展開中

長野県塩尻市における取組

共通プラットフォームイメージ【塩尻市】

共通プラットフォームイメージ図

<構築した共通プラットフォームの技術要素>

・センサーなど様々な機器とIFに対応するためにデータフォーマットを標準化

・Hadoopデータ構造を利用した情報管理

・情報提供APIの構築

・OpenAPIをセキュリティで保護
・認証情報(SAML)

・LoginIDに連携した情報問合せ

・マルチキャストを利用した一斉情報配信

レイヤ化

情報生成レイヤ(各種センサ)

(入力)

収集/蓄積レイヤ

情報管理レイヤ

情報抽出レイヤ

セキュリティレイヤ

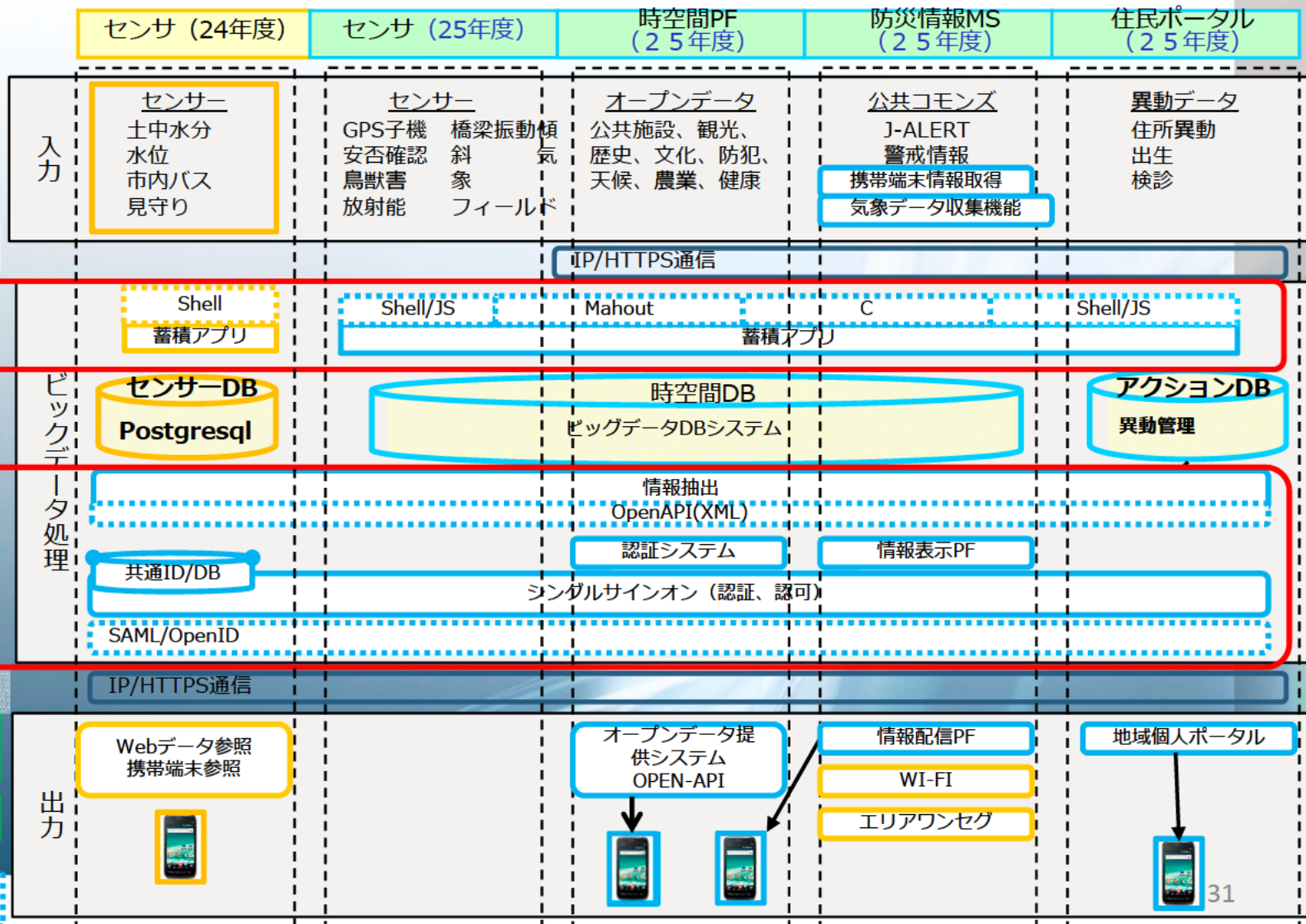
(出力)

見える化レイヤ(UI)

配信レイヤ

各種プロトコル(利用手段)

総合クラウドシステム



既存事業

本事業

事業実施内容と成果 1/2 【塩尻市】

・実施内容

縦軸

1. 時空間プラットフォームによる総合情報提供

- 1) 時空間プラットフォーム
- 2) 認証システム
- 3) 住民ポータルサイトプラットフォーム
- 4) 各種センサーシステム
- 5) 情報防災マネジメントシステム
- 6) 携帯端末情報取得機能

・各種オープンデータをクラウド上のデータベースに蓄積し、横断的に検索が可能な時空間プラットフォームを構築。住民150名にアンケート調査を行い、システムの有効性について検証を実施

横軸

1. 共通ID相互連携(塩尻市、朝日村)

- ・住民ポータルサイトSPと仮想職員SPの2つの認証連携について、認証データの標準化を実施
- ・官民認証連携における運用ルールを検討し、最も適した認証運用ルール等の作成と検証

2. 情報配信プラットフォーム(塩尻市、三鷹市)

- ・三鷹市、塩尻市の2市の異なるネットワークにおいてユニキャスト及びマルチキャストの2つの通信環境が混在できる環境を作成し、平時・緊急時における情報配信について、技術面及び運用面における検証を実施

他地域への普及展開が可能なプラットフォームが実現

事業実施内容と成果 2/2 【塩尻市】

・得られた成果

縦軸

1. 時空間プラットフォームによる総合情報提供

- ・クラウド上に、オープンデータ(各種センサーデータ、観光情報、住民イベント情報等)を蓄積し、各カテゴリで表示投稿アプリで住民から投稿した内容に状態表示し、現在の状況を逐次効率的に把握できた。
- ・住民に寄り添ったサービスをプッシュで行うことができるプラットフォームが実証構築できたことで、行政経費節減に向けた新しいサービスを開発する基盤が構築できた。
- ・国際標準の認証、データアクセス手順等に基づき、データの利活用を行うアプリケーションを構築したことで、新たなデータが増えた場合でも効率的にデータの利活用ができるプラットフォームが構築できた。
- ・構築したアプリケーションを住民に試用してもらい、160名(4月15日現在)の利用者から「便利だと実感した:91%」「ぜひ使ってみたい:79%」とのアンケート結果を得た。

横軸

1. 共通ID相互連携(塩尻市、朝日村)

- ・国際標準SAML2.0の仕様に準拠し、複数SP間で認証連携を行う仕組みを構築し運用規則を実証したことで、認証連携についてのノウハウの蓄積ができる環境が整った。
- ・朝日村住民のIDで塩尻市の住民ポータルサイトを利用(認証連携)できることを実証したことで、生活地域が共通の住民が同じサービスを受けることができることが実証できた。
- ・利用者アンケート(30名)では、「便利だと実感した:83%」「ぜひ使ってみたい:88%」とのアンケート結果を得た。

2. 情報配信プラットフォーム(塩尻市、三鷹市)

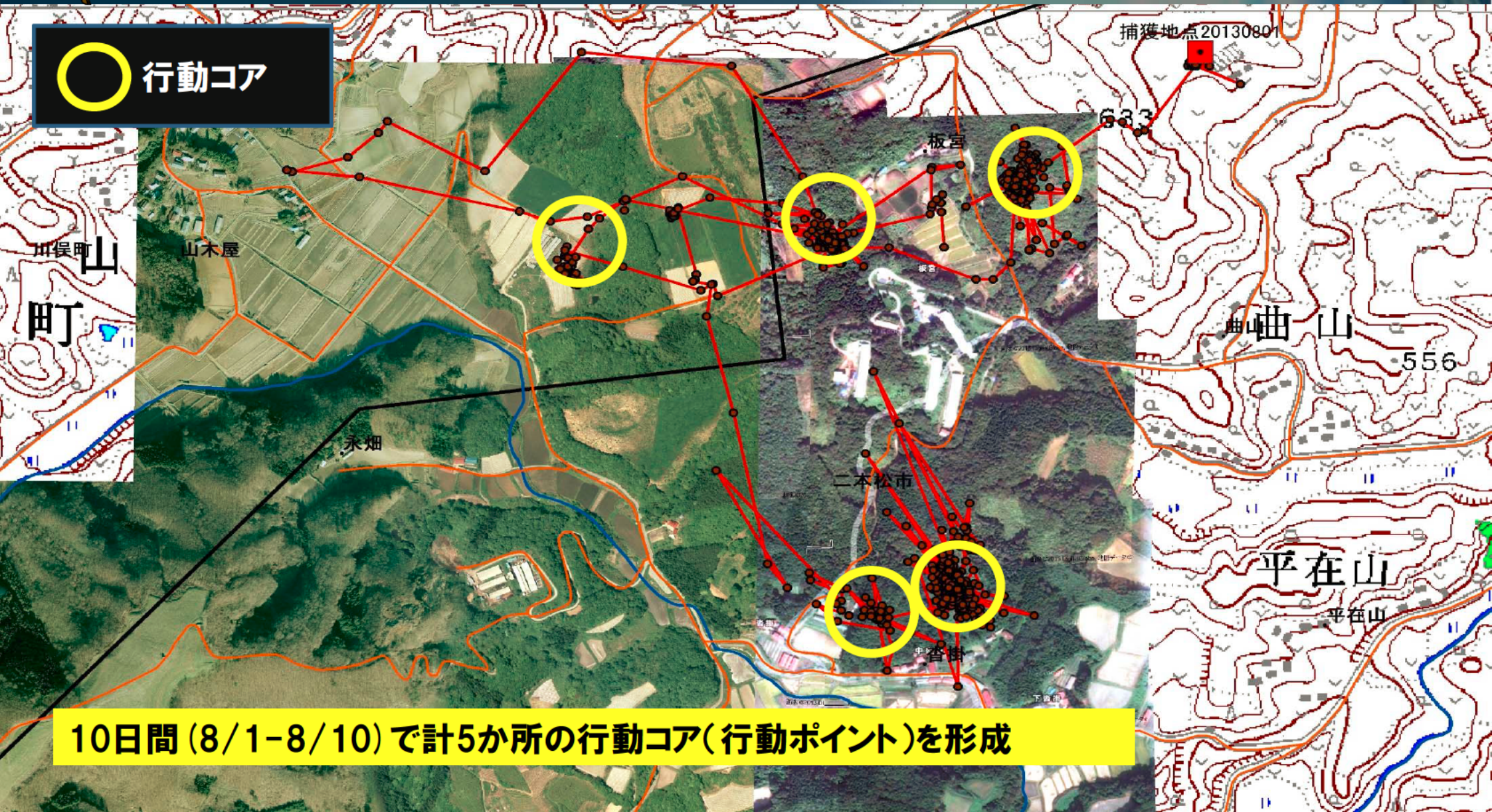
- ・三鷹市、塩尻市の2市の異なるネットワークにおいてユニキャスト及びマルチキャストの2つの通信環境が混在できる環境を構築したことで、トラフィックに関係せず、コンテンツが表示できることを実証した。
- ・実証実験により、技術面・運用面での課題等を確認した。

他地域への普及展開が可能なプラットフォームが実現



事業実施による成果 福島Project 【塩尻市】

○ 行動コア

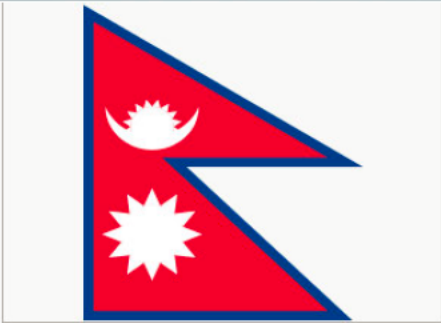


10日間 (8/1-8/10) で計5か所の行動コア(行動ポイント)を形成

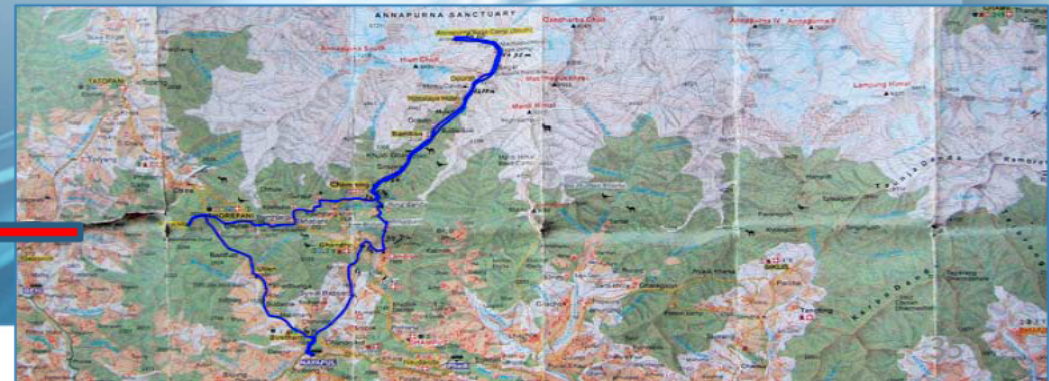
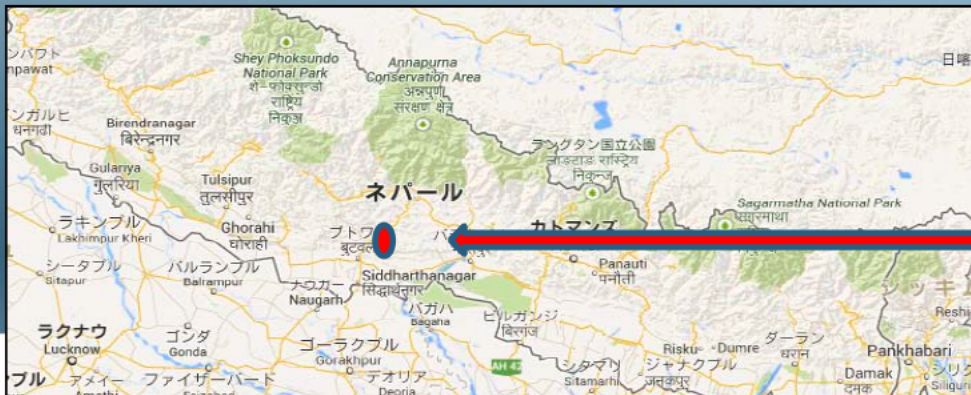
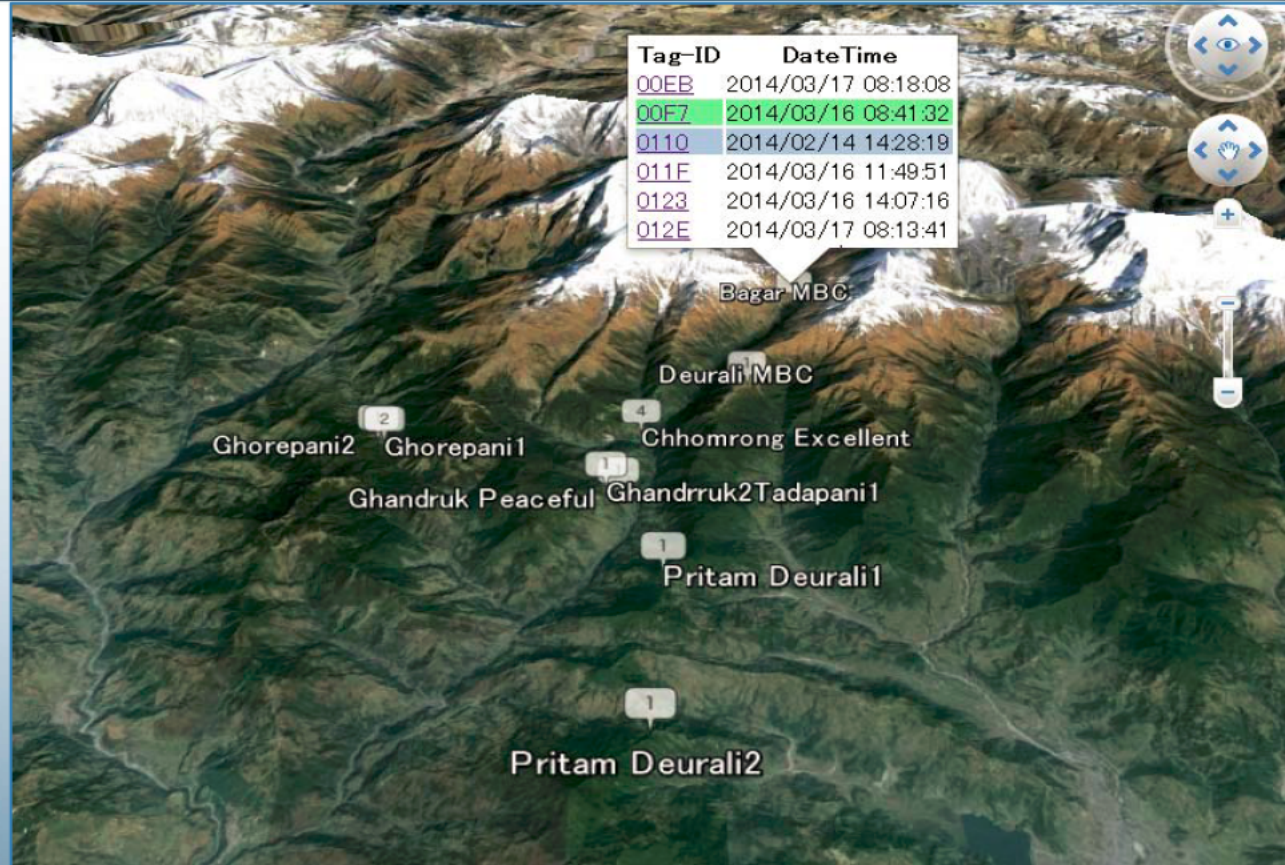
20130801 Nihonmatsu City_Iwashiro_Tazawa (♂) GLT-01 Serial No.49



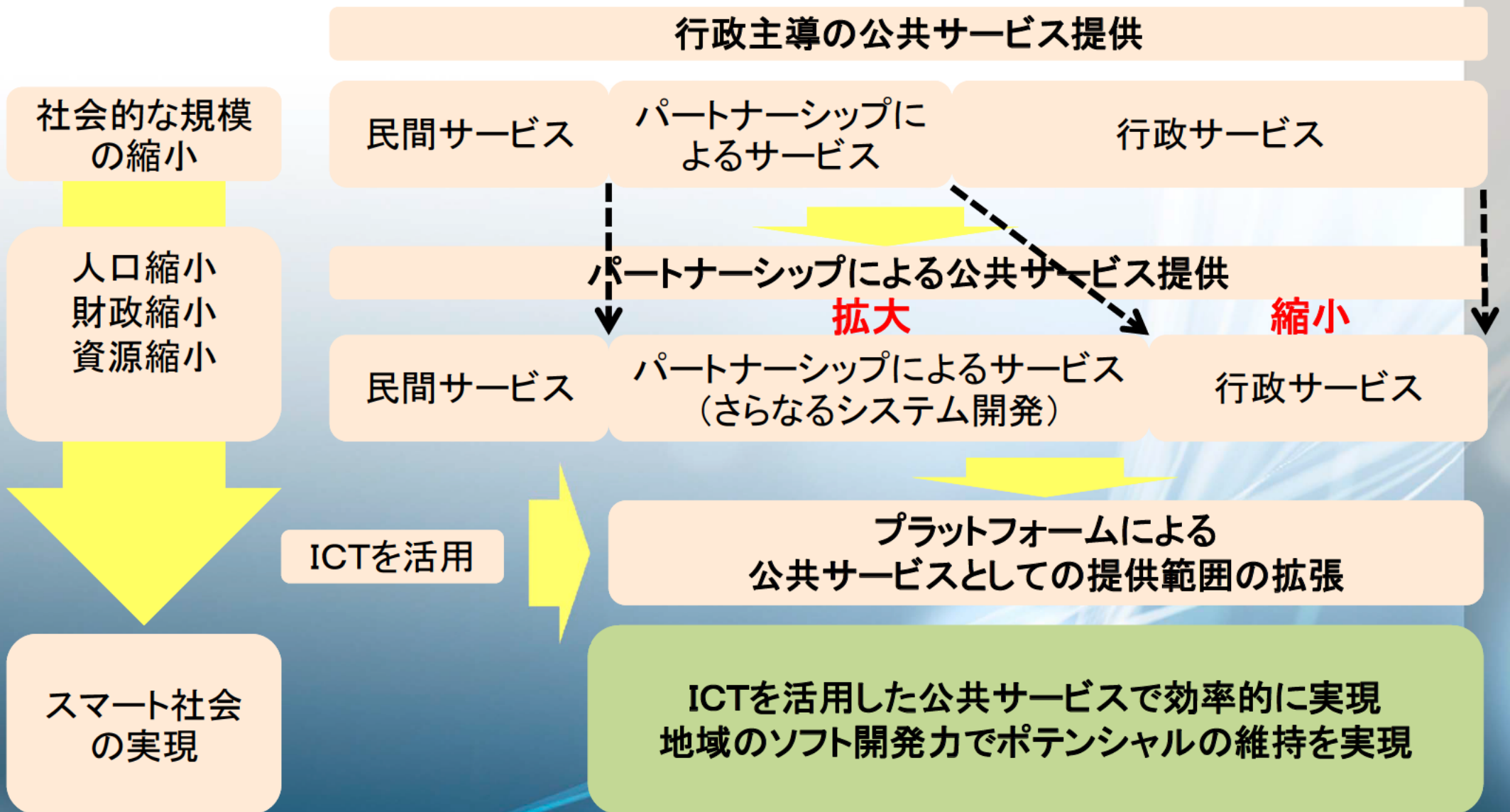
事業実施による成果 Nepal Project 【塩尻市】



Nepal Annapurna

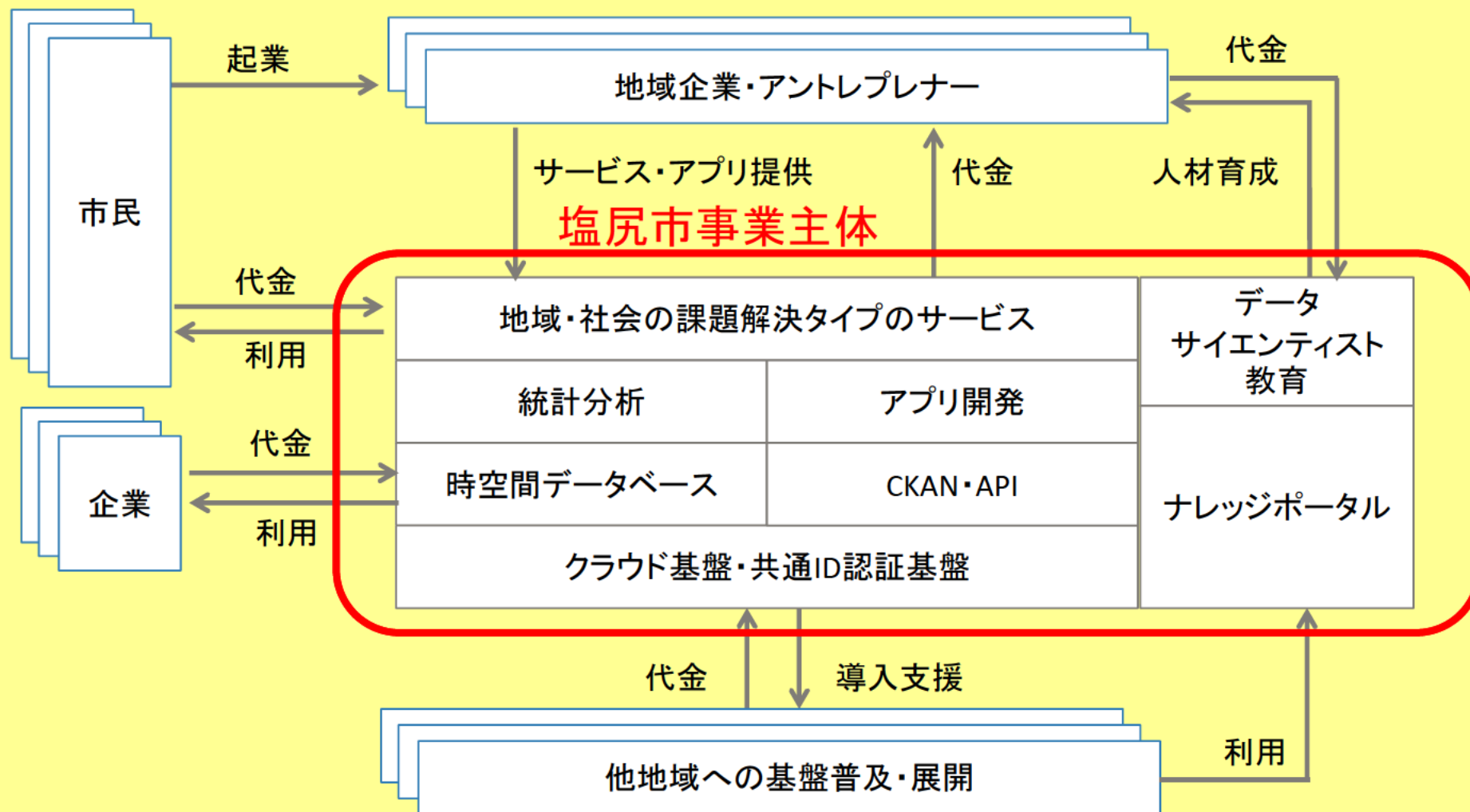


今後 これからの公共サービス【塩尻市】



今後 これからの事業実施スキーム【塩尻市】

街全体をデータ活用ビジネスを生むプラットフォームと捉えイノベーションに取り組む



静岡県袋井市における取組



平成25年度ICT街づくり推進事業

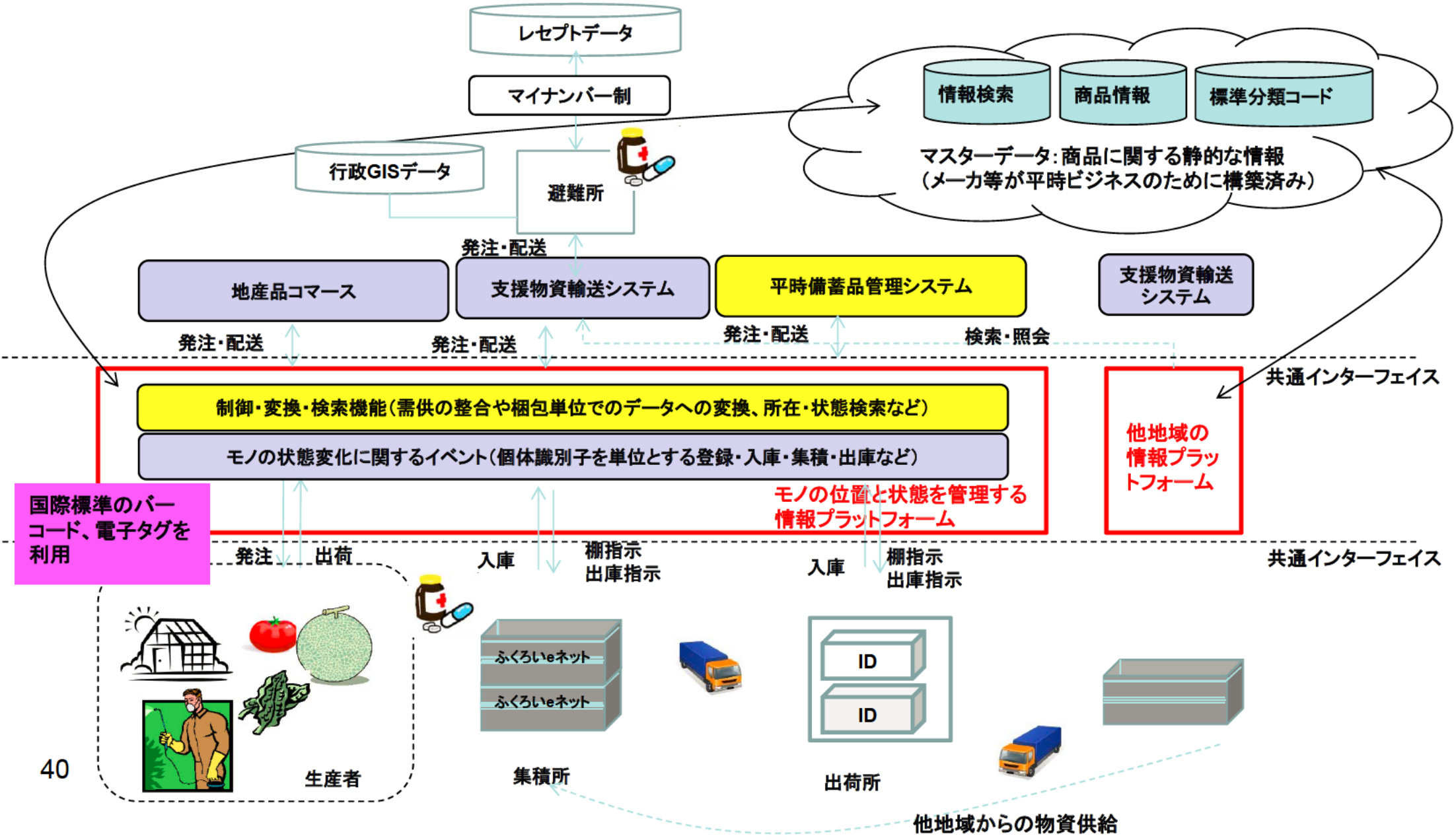
災害時支援物資供給機能を有する6次産業化コマース基盤の拡充による
平時・災害時共用物資管理・配送プラットフォーム構築事業

袋井市

(株)大和コンピューター、慶應義塾大学、神奈川工科大学、静岡県

本事業の狙い

様々なサービスが共用できるモノの位置と状態を管理する情報プラットフォーム アーキテクチャ(機能配備とインターフェイス定義)の構築と実装



提案する情報プラットフォームが 解決する地域の問題

- 農産物コマース・トレーサビリティ: 儲かる農業、食品安全
 - － 各農家のコマース・トレーサビリティ機能を地域で集約して、品揃え拡大、コスト低減・技術リスク回避
 - － 収量は天候等に影響されるため需要と供給を地域で集約して動的に調整
- 災害用備蓄品管理: 災害時に円滑・効率的に物資を供給・配送
 - － 自治体間、自治体-民間で在庫共有
 - － インターフェイス・語彙の統一により、災害時の支援物資供給を円滑化・迅速化
- (各種配送、買い物難民対策、配食サービス、福祉機器配送などでも共同利用)

平成25年度事業の内容

- ・アプリケーションが共通的に必要とする機能（ポリシーに基づく配送制御、備蓄品管理システム、バーコード遠隔発行システム）を情報プラットフォームに実装
- ・災害備蓄品のオープンデータ化に関する検討と塩尻市・三鷹市との共同実験
- ・マイナンバー制を想定した人のIDとモノのIDの連携

平成24年度

平常時

農産物流通システム

災害時

災害時支援物資供給システム

平成25年度

平常時

備蓄品管理システム

平常時から市の備蓄品の管理を行う。

平常時

災害時

Web公開システム

品名	単価	在庫	備蓄
トウモロコシ	180	75	80
サトウ芋	180	75	80
ジャガイモ	180	75	80
ニンジン	180	75	80
ピーマン	180	75	80
ピーチ	180	75	80
バナナ	180	75	80
りんご	180	75	80
みかん	180	75	80
みずみかん	180	75	80
ぶどう	180	75	80
梨	180	75	80
桃	180	75	80
いちじく	180	75	80
りんご	180	75	80
みかん	180	75	80
みずみかん	180	75	80
ぶどう	180	75	80
梨	180	75	80
桃	180	75	80
いちじく	180	75	80

平常時・災害時備蓄品情報を公開する。

平常時

災害時

バーコード遠隔発行システム

他地域からの支援物資にあらかじめ添付することにより集積所での作業を軽減させる。

災害時

被害状況Webシステム

災害時に支部職員などからの送付される画像データにより視覚的に被害状況を把握することを可能とする。

平常時

災害時

ポリシーに基づく配送制御

機能拡充

在庫割当・配送制御

避難所状況の確認

避難所名	人数(人)
寺井小学校(今井支部)	40
山名公民館(上山梨支部)	20
段井中学校(段井支部)	40
段井北小学校(段井北支部)	60
段井西小学校(川井支部)	40

・支部からの要請に対して、在庫がある場合、避難所の状況によって出荷指示を出す

平成25年度事業の主要な成果

- ポリシーに基づく配送制御機能を情報プラットフォームに実装。平時の地産品コマースにおける大量発注に対する効率的在庫引き当てや、災害時の公平な支援物資配分を実現。
- 袋井市災害備蓄品管理システムを情報プラットフォームを利用したサービスとして実装。2支部（約1000アイテム）から管理を開始。
- 袋井市・塩尻市・三鷹市の備蓄品（約100万アイテム、管理単位約2400種）を防災物資語彙（内閣府）などを使って分類。オープンデータ化によって物資を相互流通させるためには、分類・単位語彙の共通化と個体詳細データ開示が有効であることを明確化。分類・管理方法を共通化することで災害時の物資仕分け時間を最大26倍効率化できることを実証。
- 全国自治体（365市・32府県）に対して、医薬品の確保方針の調査を実施し、慢性疾患用医薬品の使用実態に応じた備蓄が殆どされていないことを明らかにし、レセプト分析により何がどれだけ必要かを定量化（袋井市の糖尿病治療薬調査結果：9品目の備蓄=60%充足、23品目の備蓄=80%充足）。

システムの実用性検証 実証実験の実施

日 時：平成26年3月21日（金・祝日）9：00～12：00

訓練会場：袋井市役所（コスモス館、市役所駐車場）
袋井中学校（袋井支部）
袋井北小学校（袋井北支部）

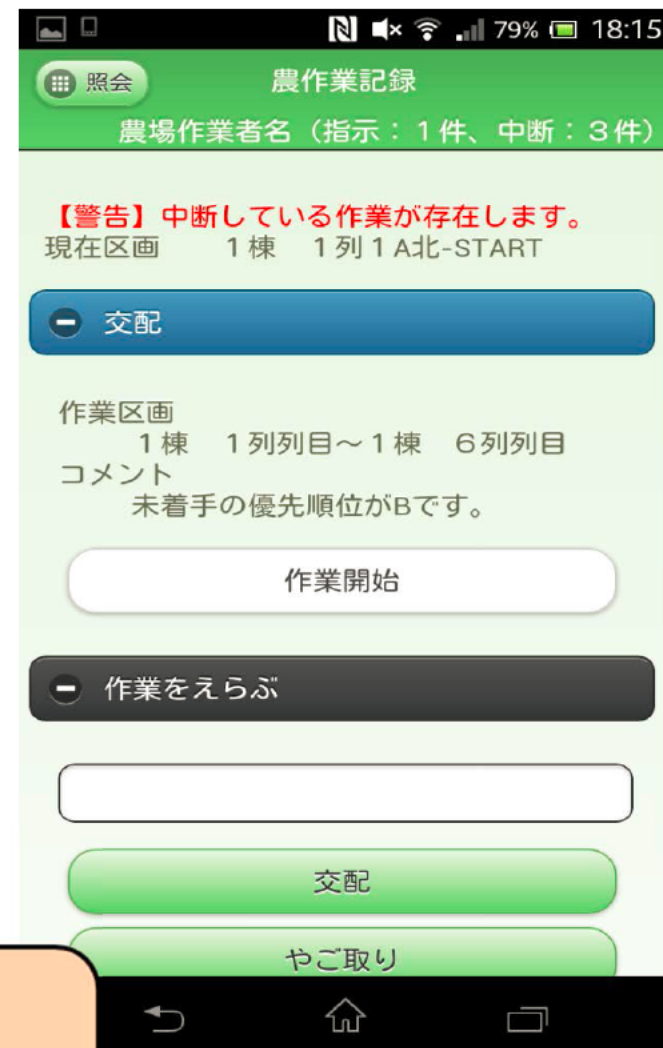
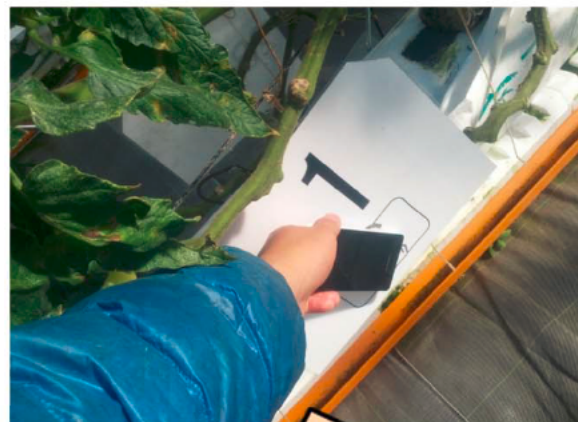
市民約80名
を含む約140名
が参加

実証実験の主要な目的：

- ・ **ポリシーに基づく配送制御**：災害対策本部が被災状況に応じて定める配送ポリシーによる支援物資供給・配送制御の操作性・有効性の確認
- ・ **必要医薬品配送**：レセプト分析とマイナンバー制度を想定した人のIDの連携による必要医薬品配送の操作性・有効性の確認
- ・ **災害備蓄品のオープンデータ**：災害備蓄品管理・供給の情報アーキテクチャを共通化した場合の効果定量測定



平時利用：農作業記録システム 〈スマートフォンでの記録イメージ〉



農作業記録システムはNFCタグを利用して、作業を記録する。
今回は水菜農家のグロー様にも協力を頂き、汎用性の高いものとした。
作業の計画から、農薬の正しい情報から設定できるようにした。

食品安全・生産コストに関わる 基礎作業データ自動収集(データ翻訳)

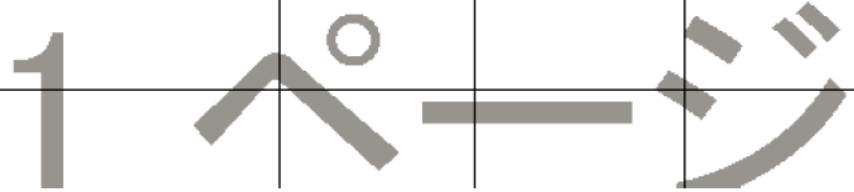
薬散や施肥の情報を農作業記録システムに記録した内容からJA遠州中央やJGAP協会推奨の様式に出力することができる。これにより、食の安全、安心に関わる情報が素早く正確にトレースできる。

JA向け栽培履歴資料

栽培履歴

支部名	-	作物名	トマト	播種日	
生産者名	大和コンピューター	品種名	桃太郎ヨーク	定植日	
圃場名		圃場面積		収穫日	2014年02月21日～2014年04月04日

農薬名	希釈倍数使用量	散布液量	使用時期	対象病害虫	防 除 履			
					1回		2回	
					使用日	回数/使用量	使用日	回数
ハリアート顆粒水和剤	2000～4000倍、2000倍、4000倍	200～700 μ g/10a、100～300 μ g/10a、200～400 μ g/10a	収穫3日前まで、収穫前日まで、収穫21日前まで、収穫7日前まで、摘採7日前まで	かみ類、ワコワ類、モヘビカ、キンモクゲリカ、ウツカガシム、アノミ類、シクハシ類、モヘビカ、モノマウカ、アノミ、トウモロコシ、ウツカガシム、モヘビカ、アノミ類、ウツカガシム、ミ	2014/02/22	2000.0		
ベルクト水和剤	2000倍、1000～2000倍、1000～1500倍、2000～4000倍、50倍、3000倍、500～1000倍、3000～6000倍、6000倍、4000	200～700 μ g/10a、5 μ g/10a、100～300 μ g/10a、150～300 μ g/10a、200～300 μ g/10a、乾燥	収穫前日まで、収穫7日前まで、収穫14日前まで、収穫75日前まで、収穫3日前まで、収穫30日前まで	黒星病、斑点落葉病、輪紋病、すす点病、すす斑病、黒点病、黒斑病、根腐病、腐敗病、うどんこ病、すすかき病、果実赤点病、灰星病、そうか病、落葉病、果実軟腐病、貯蔵病害(灰色かび)	2014/02/22	3000.0		
粘着くん液剤	100倍	200～700 μ g/10a、150～300 μ g/10a、400 μ g/10a	収穫後から萌芽前まで、収穫前日まで、摘採	ミカバネ、アノミ類、ウツカガシム、コナシカ、カサカシカ	2014/02/27	100.0		



平成26年度

ICT街づくり推進事業の継続展開について

1 ふくろいeねっとを地域活性化のTOOLとする

- ふくろいeねっとへの出店条件などのルール作りを行う。
- 袋井商工会議所の協力を仰ぎ、販売品目、出店者数を増やす。
- 販売数を増やし、自立した運営活動を目指す。

2 オープンデータ化への取り組み

- オープンデータ化に向けた職員の教育訓練とルール作り。
- 市の保有する情報をスピード感を持ってオープンデータ化する。
- 備蓄品のバーコード管理を行う支部を拡充する。

愛知県豊田市における取組

平成25年度の取組概要

平常時の利便性と急病・災害時の安全性を提供する市民参加型ICTスマートタウン

■本事業の特徴

「医療」と「交通」の融合、「平常時」と「緊急時」のシームレス化で、大都市だけでなく、中小都市や中山間地域でも実用可能な仕組みを開発。昨年度成果を踏まえた発展事業としては、電子カルテのオンライン参照、ICカードを活用したサービスの多様化、マイクロポストシステムの構築、共通ID相互連携による健康サービスの提供を実施。

スマホ系のサービス

～安全・安心街づくり情報を市民参加で実現～

H24: CAN情報収集システムの確立

H25: マイクロポストシステムの構築★

交通情報



CAN・GPS情報を
市民力活用により取得★



ポスト情報活用★

Tプローブ、アクティブプローブ
(交通・災害・観光等)



街情報の提供★
みちなびとよた
足助navi 等

行政・市民によるツイート情報

★ H25実施事業

統合ICカード系のサービス

～中小都市でも導入可能な安価なカードシステムで全国展開を支援～

H24: 医療+交通統合ICカードの実現

H25: より安価な仕組みの開発★



医療系サービス



カード所持状況の見える化★

H24: medicalによる救急医療データの利用
病院データの診療所の参照

H25: 医療機関間連携★診療メモの参照(2病院+診療所)
電子カルテ★オンライン参照(1病院)

地域公共交通の決済

H24: 回数券決済システム

H25: 対距離決済の実現★



電子マネー決済★

高齢者向けサービスの充実
被災時安否確認★
避難所での安否確認



カード活用サービスの展開

予防医療サービス

リファレンスモデルの提示



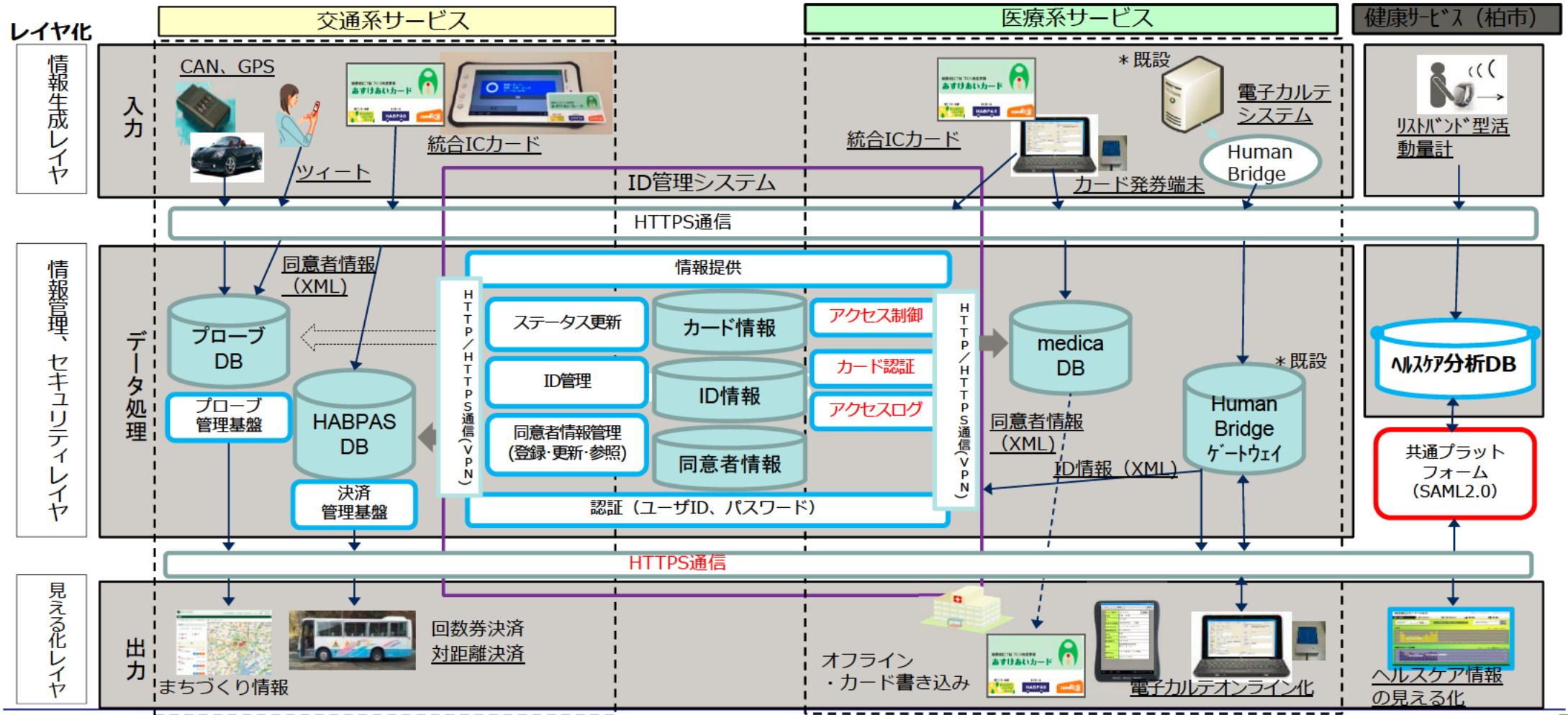
足助住民への
ヘルスケアデータの提供★
柏市ヘルスケアシステムと連携

ヘルスケアサービスの提供
共通ID相互連携(SAML)で
SSO(シングルサインオン)

ID管理/認証

5都市連携の概要 共通ID連携(地域プラットフォーム)

運営主体	豊田市ICT街づくり推進協議会
特徴	同意者情報管理(登録、更新、参照)、ID管理、ステータス更新・認証(ユーザID、パスワード)
検討すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ■地域内 多様なサービスを活用するための運用ルール(多種類のサービスで使える共通ID) セキュリティレベルの異なる事業者間のアクセス制御に対する指針 ■他地域プラットフォームとの連携 他地域連携におけるIFの共通化、障害発生時の責任分界点等の運用ルールの明確化

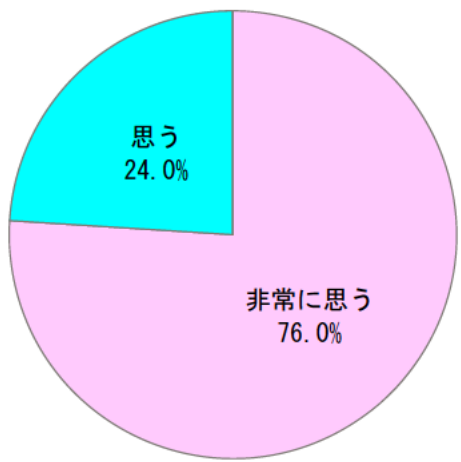


平成25年度実施プロジェクトの内容と成果

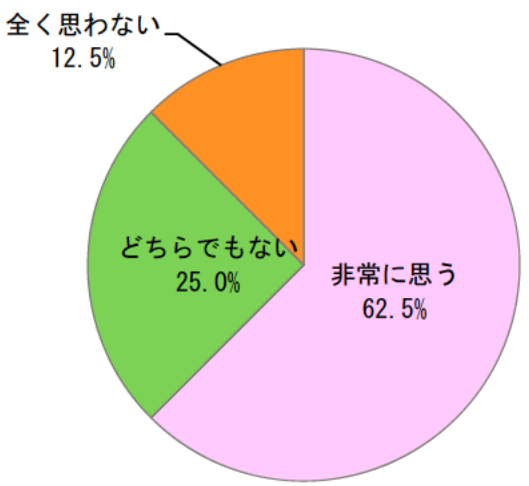
目標	実証内容と成果
交通・医療分野の融合による住民の暮らしの向上	<ul style="list-style-type: none"> ■ カード所持の遠隔認証 意識不明時でもmedicaの所持を判別できる効果 ■ カードによる病院売店での簡易電子マネー決済システムの開発(SAIF) 顧客・店舗双方の小銭不要化 ■ 対距離運賃制にも対応できる簡易バス運賃決済システムの開発(HABPAS) HABPASの汎用化
平常時と災害時を跨ぐ安全・安心な暮らしを実現	<ul style="list-style-type: none"> ■ 足助病院の医療情報(電子カルテ)を周辺の医療機関も閲覧できる医療機関間連携を実現 電子カルテ参照や診療メモ参照による医療業務の効率化 ■ 避難所での避難者名簿自動作成システムの開発(ANPI) 避難所での名簿作成時間の短縮化
市民カデータを活用したまちづくりの支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自己所有のスマートフォンを使用した、市民力情報収集システムでプローブ情報やつぶやき情報を収集するシステムを開発(マイクロポスティングシステム) 誰でもまちづくり支援データを提供できる仕組みを構築 ■ 収集したデータの活用による、まちづくりや災害時の行政事務効率化
共通ID相互連携	<ul style="list-style-type: none"> ■ 柏市の「健康見える化サービス」を足助地区20名に提供 独自で健康サービスを導入した場合よりもコスト削減 ■ 柏市と豊田市でのID管理システムの連携 サービス展開コスト削減効果 ID認証時間の短縮

実証実験に参加したモニタへのアンケート結果【速報値】

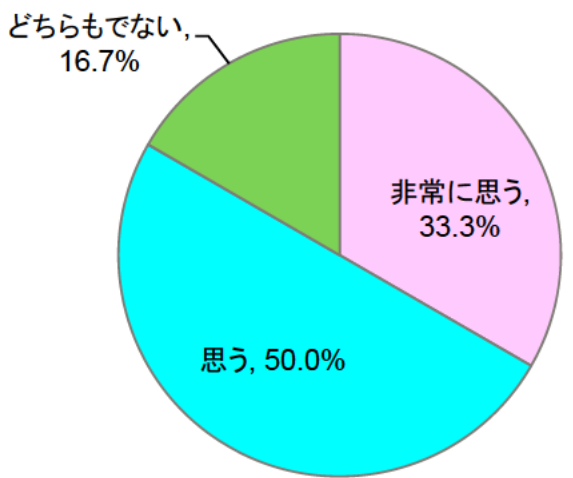
■あすけあいカード(medica)を持つ安心感



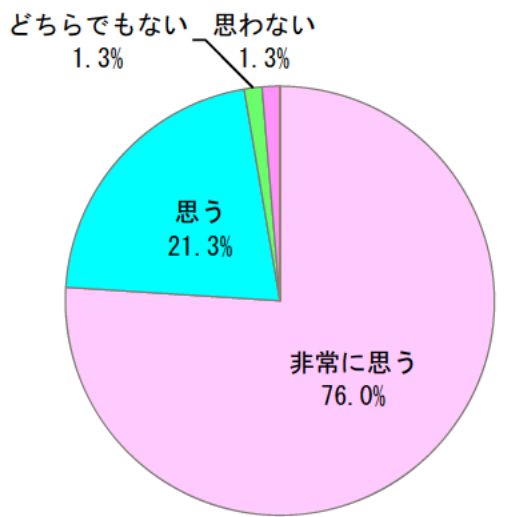
■HABPASの利便性



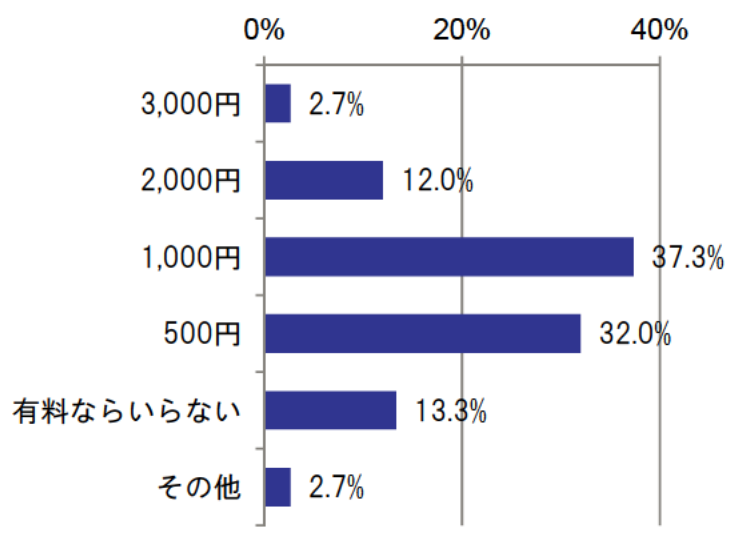
■電子マネー決済の利便性



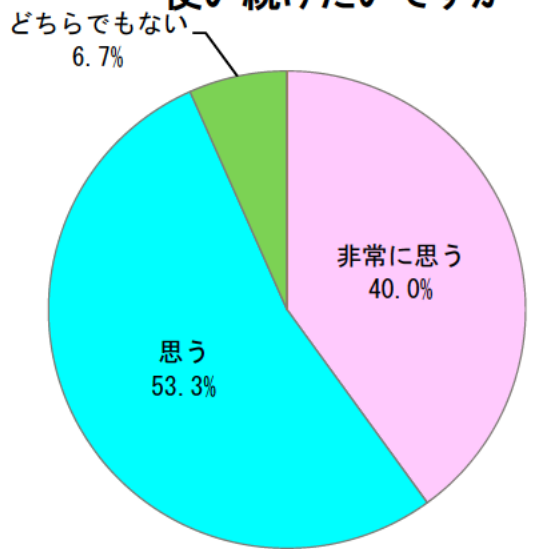
■災害時や非常時の位置確認サービスの利便性



■あすけあいカード作成にいくら支払えますか



■あすけあいカードを使い続けたいですか



今後の体制および展開に関する取組

項目		内容
事業終了後の体制	実施主体	豊田市ICT街づくり推進協議会メンバー※で事業を継続 費用は協議会メンバーがそれぞれ負担 ※豊田市・名古屋大学・岐阜大学・JA愛知厚生連足助病院・株式会社日建設計総合研究所・株式会社フォアフロントテクノロジー・沖電気工業株式会社・株式会社パケモ・株式会社DRAGON AGENCY
	運用内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統合ICカード(あすけあいカード) 医療情報共有ID、medica、HABPAS、SAIF、ANPI ■ 足助NAVI ■ ID管理システム
	方針	H24年度、H25年度ICT街づくり事業による実証結果、およびH26年度の協議会による運用結果を踏まえ、事業継続に関する方向性を整理する。
国内外に向けた普及展開の取組	国内	<ul style="list-style-type: none"> ■ medica 地区：各務原市 内容：診療所でのICカード情報読書サービスを搭載し、H26年度に検証実験を実施 実験終了後は有料化による継続運用を検討中 ■ HABPAS 地区：淡路島 内容：H25年度実証実験を実施、事業終了後は有料化による継続運用を検討中 電子マネー決済やポイントなどICカードを使用した他のサービスの搭載を検討中
	国外	<ul style="list-style-type: none"> ■ HABPAS 地区：フィリピン スービック経済特別区 内容：平成26年夏頃 に実証実験をスービック経済特別区政府と名大で実施 導入理由：運賃收受の適正化、バスのリアルタイム運行管理